

ラシタリ

順位五四四乃至順位五四七 本地點ハ寸又川峡谷中ニ在リ水路ハ隧道ヲ主トシ開渠ヲ併用ス運搬ノ便甚タ悪シク且地質崩壞シ易キヲ以テ工事困難ナルヘシ

順位五四八及順位五四九 本地點ハ水路ハ隧道トシ前者ハ右岸ニ後者ハ左岸ニ設ク崩壞地多ク工事亦困難ナルヲ免レヌ是等地點ノ利用ハ大井本川地點利用ノ後交通運搬稍便トナレル後着手スルヲ利トス

第十一章 天龍川水系

第一節 概 説

天龍川ハ本州ノ略中央、本區ニテハ其ノ西南端ニ位シ水源ヲ信州諏訪湖ニ發シ南流シテ遠江ニ入り太平洋ニ注ク

流路延長約五七里、本邦主要大河ノ一ナリ

一、流域 流域ハ信遠二州ニ跨リテ之ヲ南北ニ縦貫シ尙三河ノ一部ヲ含ミ總面積約三三五方里ヲ有ス

(一)地形 流域南北ニ長ク東西ニ狭ク稍長方形ヲナシ東西ノ幅平均約一〇里、南北ノ長約四三里ヲ有ス、殆ト全部山

地ニシテ僅ニ水源諏訪湖ノ沿岸及上流部沿岸伊那谷地方並下流海岸部ニ平野ヲ存スルノミ、流域山脈ノ主ナルモノハ赤石山脈及木曾山脈ニシテ前者ハ東境ニ沿フテ南北ニ走り後者ハ西境ヲ劃シテ南北ニ連互ス、是等山脈ノ支脈ハ東西ヨリ横走シテ流域内ニ蟠踞シ高山峻峰ヲ起シテ以テ各支川ノ分水嶺ヲナシ本流ハ殆ト其ノ中央部ヲ南ニ向ツテ縦走セリ

(二)地質 流域ノ地質ハ甚タ複雑ナレトモ今其ノ分布ノ大略ヲ述フレハ水源部諏訪湖沿岸ニ在リテハ湖ヲ圍繞セラル山地ハ概ネ安山岩等ノ火山岩ヨリ成リ湖畔ノ平地ハ沖積層ナリ、本川上流部ニ至レハ東境ニ秩父古生層アリテ其ノ幅廣ク且遠ク下流部ニ至ル迄南北ニ連リテ赤石山脈ノ主脈ヲ成シ其ノ内面ニハ結晶片岩ノ狭キ層アリテ之ニ接續ス、西境ハ北端ニ古生層アリ花崗岩之ニ續キテ南方中流部ニ達シ木曾山脈中ノ高峰ヲ成ス、東西兩層ノ中間ニハ片麻岩層廣ク介在シテ中央部ヲ占據シ其ノ中間沿岸部ニハ洪積層アリテ之ヲ被包シ以テ伊那谷ノ平野ヲ成ス、中流部ニ至リテハ西境花崗岩ハ廣ク中央部ニ流入シ來リテ東境秩父層ト相接スルニ至リ又片麻岩層ハ上流部ヨリ連續シ來リテ極メテ狭ク秩父層及花崗岩ノ中間ニ介在シ以テ兩

層ヲ隔絶シ且花崗岩中ノ諸處ニ點在セリ、下流部ニ至レハ中央ニ結晶片岩廣ク横在シ東境秩父層ハ之カ南方ヲ繞リテ狭キ帶狀ヲナシテ之ヲ包圍シ其ノ東南ニハ御坂層及第三紀層相連リテ山脚ノ低山ヲナシ第四紀層ハ廣ク南ニ連リテ海岸部ノ平野ヲ占ム

(三)林野状態 本流域内ニハ國有林ナシ、御料林ハ東境赤石山脈ヲ始メ西境木曾山脈ノ一部其ノ他流域内諸處ニ分布セリ多ク針葉樹若ハ針濶混淆ノ原始林ニシテ斧鉞ノ未タ入ラサルモノ多シ其ノ他ハ上流部信州ニ在リテハ本流東岸ノ山脈ニ針葉良林アルヲ除キテハ他ニ殆ト良林ナク疎林雜木林ヲ主トス、下流遠州ニ入レハ全ク面目ヲ一新シ植林事業甚タ盛ニシテ杉樹ノ植栽ヲ主トシ樹齡未タ高カラスト雖鬱々タル美林ヲナシテ全山ヲ蔽ヘル處多ク本邦有數ノ植林地方タリ

今信遠國境ヲ界トシ其ノ上流及下流ニ於ケル地目分布ノ割合ヲ見ルニ上流信州分ハ總面積約二四三方里中農耕地二割、無立木地四割ニシテ立木地僅ニ四割ニ過キササルモ下流遠州(三河)ノ一部ヲ含ム分ハ二俣町天龍橋迄面積約八一方里ノ内立木地ハ實ニ其ノ約九割ヲ占メ農耕地無立木地ハ其ノ殘部ヲ約折半ス從ツテ上流ヨリ天龍橋迄ノ總面

積約三二四方里ニ對スル比率ヲ求ムレハ農耕地一割六分、立木地五割二分無立木地三割二分ナル、但シ農耕地トハ山林地ヲ除ケル他ノ全部即チ畑、宅地、道路、水面等ヲ悉ク含メルモノトス。次ニ本流及主要支川ニ付三者ノ百分比ヲ擧クレハ左ノ如シ

河 川	農耕地	立木地	無立木地
天龍川(諏訪湖口以上)	三〇	三〇	四〇
(中流飯島以上)	二五	三三	四二
(中流佐久間以上)	一八	四五	三七
同 (下流天龍橋以上)	一六	五二	三二
*三 峰 川	一〇	四〇	五〇
*小 澁 川	一〇	五〇	四〇
*阿 知 川	一〇	三五	五五
和 知 野 川	一六	四〇	四四
遠 山 川	一〇	六〇	三〇
大 千 瀬 川	八	七九	一三
水 窪 川	三	九四	三
氣 田 川	三	九三	四

備考 * 天龍川本流合流點ヨリ少シク上流ノ位置ニ於ケル比率ナルモ略之ヲ以テ其ノ一般狀態ト看做シ得ヘシ

(四)氣象狀態 流域内雨雪降下ノ狀態ヲ見ルニ流域甚々狹長ナル爲北方上流部ト南方下流部トニテハ著シク其ノ量ヲ異ニス、即チ南方海岸ニ近キ山嶽地方ニ於テ最多量ニシテソレヨリ北方ニ赴クニ從ヒテ少量トナル、水源上諏訪ニ於ケル年降水量ト下流部氣田ニ於ケル年降水量トヲ比較スル時ハ後者ハ實ニ前者ノ二倍乃至三倍ニ達スルコト稀ナラス、今季節別ニ之ヲ見ル時ハ其ノ理由ノ自ラ明ナルモノアリ蓋シ流域内降水量ハ一般ニ夏季最多ク春秋之ニ次キ冬季最少キヲ普通トシ其ノ中夏季ハ其ノ卓越風タル南風カ多量ノ雲霧ヲ齎シテ本土ヲ襲フニ際シ濱松附近ノ平野ヲ過リテ最初ニ衝突スル山嶽地方タル氣田附近ニ於テ主トシテ其ノ包有スル水分ヲ遊離降下セシムルヲ以テ同地方ニ於テ最多量ノ降雨アリソレヨリ北方ニ進ムニ從ヒ漸次減少シ水源部ニ至リテ甚々少量トナルヲ以テナリ、又春秋二季ハ風向變シ上流部ハ西風、下流部平野ハ北風ニ偏シ兩者間ニハ夏季ニ於ケル如キ甚シキ降水量ノ差ナキモ猶南方ニ多ク北方ニ少キ傾向アリ冬季ハ日本海ヨリ北西風ノ齎ス水分ハ飛驒、北信ニ於ケル高山脈ニ於テ降下シ去リテ本流域内ニハ殆ト影響ナク上流部ハ西方、下流平野部ハ北方ノ風吹キ上、下流ニテ降水量ノ差殆トナシ。左ニ

流域内代表的位置ニ於ケル大正八、九、十三箇年平均ノ季節別降水量ヲ掲ク

地方	春	夏	秋	冬	全年	備考
上方(諏訪)	三〇〇	五二九	四四四	一八九	一四四二	最少地方
飯田	四二二	五九八	五〇〇	二五二	一八〇二	
氣田	八〇六	一三一九	八〇〇	二五四	三三三九	最多地方
濱松	五三〇	七五〇	六五五	二五七	二一九二	

氣温モ亦上流、下流ニテ相當ノ差アリ今北部、中央部及南部ノ三位置ニ付三箇年間ノ平均氣温ヲ示セハ次ノ如シ

地方	平均氣温	海拔高	緯度
上方(諏訪)	一一・〇度	二、五〇〇尺	北三六・〇三分
飯田	一二・四	一、七二一	三五・三一
濱松	一五・〇	一六	三四・四三

但シ前記位置ハ略流域中央ノ低キ溪谷部ニ當ルモノニシテ流域東西ニ相竝走セル高山脈地方ニ於テハ氣温之ヨリ遙ニ低シ左記位置ハ是等山脈ニ近キ地方ナリ

地方	平均氣温(大正六、七)	海拔高	緯度
富士(北見)	九・二度	三、二四一尺	北三五・五四分
市野(北見)	九・九	二、九〇四	三五・四四
波野(北見)	九・七	三、一五〇	三五・二二

蒸發量ハ一般ニ稍多クシテ普通年量一、〇〇〇耗ヲ超エ且北方ヨリ南方ニ赴クニ從ヒ漸次増加ス即チ左表ノ如シ

地方	春	夏	秋	冬	年量	備考
富士(北見)	三九元	三三八	一八七	一七三	一〇七	八、十兩年平均
飯田(北見)	三三七	三二五	二二〇	一五〇	一〇九	八、九、十兩年平均
濱松(北見)	三四三	三八〇	二五八	一六九	一五〇	八、九兩年平均

(五)沼湖 水源ニ諏訪湖ヲ有スルノミ、本湖ニ關シテハ次節ニ於テ之ヲ詳述スヘシ

二、河川狀況 本川ハ流域狹長ナルカ故ニ一般ノ大河ノ如ク廣キ樹枝狀ノ支派川ヲ有セス、又流域ハ概ネ山地ナルヲ以テ他ノ大河ト趣ヲ異ニシ殆ト全部山間ノ溪谷ヲ以テ流路トナシ本流最下流部ニ至リテ始メテ稍廣開セル平地ノ間ヲ流下ス、支川ノ數甚々多シト雖概ネ流域狹小ニシテ流路短ク大支流少シ其ノ左岸ニ入ルモノ比較的大ニシテ三峰、小澁、遠山、水窪、氣田ノ諸川アリ右岸ニ入ルモノニハ小河多ク主ナルモノヲ横川、大田切與田切、松、阿知、和知野、早木、大千瀬ノ諸川トス、是等諸支川ハ流下勾配概シテ急ナルトモ本流ハ其ノ水源ノ高度ニ比シ流路頗ル長キ爲甚々緩ナリ、又諸支川中東境赤石山脈ヲ水源トスル三峰、小澁及遠山ノ三川ハ地質脆弱ニシテ崩壞甚々多ク多量ノ土砂ヲ放

第二節 水源諏訪湖

流スル爲河床著シク荒廢セルモ其ノ他ノ諸川ハ河床砂礫多キモ甚シキ亂流ナク堅岩處々ニ露出シ大體ニ於テ良好ナル狀態ヲナス。一方里當渴水量ノ比較的大ナルハ阿知、和知野兩川ニシテ遠山、三峰、小澁等ノ諸川之ニ次キ何レモ一〇個ヲ超エ其ノ他ノ諸川モ七個以上八、九個内外ヲ有シ大體水量ノ調節不良ナラス、流量變化ノ狀況ハ各川共殆ト一致シ毎年四月ヨリ十月頃ニ至ル間一般ニ豐富ニシテ出水モ屢起リ變化多ク十一月ヨリ翌年三月ニ至ル間ハ流量少ク變化モ亦極メテ少シ渴水量以下ニ下ルハ冬季二月前後ニシテ夏季ニ生スル一時的減水ハ渴水量迄達セス唯本流最上流部ニ於テハ夏季降雨量ノ少キト用水關係トノ爲夏季ニ於テモ渴水ヲ見ルコトアリ

水利事業トシテ最著シキモノハ流木業ニシテ各支川共殆ト全部管流トナシ每年秋季ヨリ初春ニ亘リテ行ハレ就中遠山水窪、氣田等ノ諸川ハ數量殊ニ夥シ、本流ニハ主トシテ中流以下ニ於テ流筏行ハレ下流ニ赴クニ從ヒテ漸次數量ヲ増加ス、此ノ外舟航ハ本流時又以下ニ常時行ハレ又灌溉ハ本流筋伊那谷地方ニ於テ最盛ナリ

一、流域 諏訪湖ハ信州ノ略中央ニ位シ水面積約〇九五方里アリ流域ハ諏訪ノ一郡ヲ占メ其ノ面積約三四方里ヲ有シ四面山ヲ繞ラシ中間稍西南ニ偏シテ本湖及湖畔ノ低平地諏訪盆地ヲ包ム山ハ東及北ニアルモノ甚タ高クシテ緩ニ西南ニアルモノ低クシテ稍峻ナリ其ノ内東方ニ聳ユルモノハ火山八ツ嶽及蓼科山ノ連嶺ニシテ其ノ裾野ハ廣ク緩傾斜地ヲナシ諏訪盆地ニ連ル

山地ハ主トシテ安山岩ニシテ湖ノ東西大部分ヲ占ム北境ノ一角ニハ之ニ介在スル閃綠岩アリ花崗岩御坂層等亦此ノ間ニ散在ス南境ノ連山ハ古生層ニ屬シ東方安山岩トノ間ニ狹キ帶ノ如キ洪積層ノ高原地ヲ夾ム湖畔ノ低平地ハ沖積層ナリ

八ヶ嶽蓼科山ノ連峰附近ノ御料林及北山村内ニ於ケル約一五〇町歩ノ縣有林ハ樺樅等ノ大樹密生シ状態良好ナレトモ流域ノ大部ヲ占ムル公私有林ハ多年濫伐ノ結果不良ニシテ無立木地ヲ主トシ雜木林及針葉疎林ノ散在スルニ過キス又植林ハ前記連峰ノ山麓附近ニ於テ多少行ハレ居ルノミ

降水量ハ一般ニ寡少ニシテ大體夏季ニ稍多ク春秋之ニ次キ冬季最少シ一箇年平均氣温ハ一〇度内外ニシテ二月

ヲ最低平均零下八度内外トシ八月ヲ最高平均二十七八度トス其ノ毎月ノ最高及最低氣温ノ差ハ平均一〇度内外ナリ。今本湖ニ注入スル宮川ノ水源富士見及湖畔上諏訪ニ於ケル大正八、九兩年年平均降水量ヲ示セハ夫々一、六五二、耗及一、二八七耗ニシテ又大正八、九、十、三箇年平均氣温ハ夫々九二度及一一〇度ヲ示セリ

二、湖及流入河川ノ狀況 諏訪湖ハ周回約四里半形狀稍橢圓形ニ近ク東西ニ長ク南北ニ短シ其ノ水面ハ海拔七五九米ニ位シ冬季ハ全面結氷シテ人馬ヲ通スヘシ湖ノ水深ハ甚タ淺ク其ノ最深キ處ニテモ僅ニ二〇尺餘ニ過キス水色甚タ不透明ニシテ湖齡既ニ老衰期ニ達シ年々歳々其ノ面積及水深ヲ減シツツアリ。湖ニ注入スル河川ノ主ナルモノハ上川、宮川以上南岸及砥川北岸トス此ノ中上川ヲ最大トシ流域約一七方里ヲ有シ水源ハ流域ノ東境ヲナス蓼科山ヨリ八ヶ嶽ニ至ル連嶺ニシテ是等諸山ヨリ發スル諸溪流ハ合シテ瀧湯川、澁川、柳川等ノ諸川トナリ更ニ合シテ上川トナリ諏訪盆地ヲ西北流シテ湖ノ南岸ニ注ク、兩岸ハ火山裾野ニシテ地勢急峻ナラス、上流ノ諸川ハ勾配急ニシテ凡ソ三〇分ノ一以上アルモ下流七〇分ノ一以下ニ減ス、宮川ハ八ヶ嶽ノ西麓ヨリ發シ裾野ノ諸溪流ヲ合セツツ北

西流シ下流ハ上川ト略竝行シテ湖ニ注ク流域約七方里アリ流下勾配緩ニシテ沿岸概シテ甚タ緩傾斜ナリ、此ノ二川ハ諏訪湖ノ主タル水源ニシテ現今湖南約二方里ニ亘ル沃野所謂諏訪盆地ノ平原ハ多年此ノ二川ノ絶エサル土砂繰出ニヨリテ生セル沖積原ニ外ナラス。砥川ハ流域北境ニ發シ南流シテ湖ノ北岸ニ注ク流域約四方里ヲ有シ兩岸山腹稍急ニシテ勾配モ急ナリ本川モ前二川ト同様ナル作用ノ下ニ湖北約一方里ニ近キ豐饒ナル沃野ヲ築ケルモノニシテ湖水ノ運命ハ主トシテ以上三川ニヨリテ年々短縮セシメラレ居ルモノトス。湖ノ西岸岡谷町ヨリ流出スル水路ハ即チ天龍川ニシテ湖ハ前述ノ如ク既ニ頽齡ニ傾キ水深甚タ淺ク其ノ流出量ニ對シテ常ニ多大ノ調節ヲ行フニ足ラスト雖其ノ洪水ノ際ニ當リテハ湖畔低地一帶ニ大氾濫ヲ來シ一時其ノ洪水量ヲ停滯セシムルヲ以テ本川上流ニ對シ洪水ノ調節ヲ行ヒ得ルノ效アリ、從ツテ天龍川上流部ニハ著シキ洪水ヲ生スルコトナシ

三、水利及治水 嚴冬期ヲ除キ湖畔各町村ヨリ天龍川上流部ニ至ル間舟筏ノ航行アリテ相當盛ナリ又春季ヨリ秋季ニ至ル間漁業盛ニシテ鰻、鯉、鮎等ヲ産ス、其ノ他ノ水利事業及治水ニハ關係ナシ

許可地點ハ砥川ノ伊那電氣鐵道一、音無川ノ諏訪電氣一及東俣川ノ諏訪電氣二ヲ主ナルモノトシ皆千馬力未滿ナリ

四、水力地點 湖水ニ流入スル河川ハ何レモ小ニシテ有利ニ利用シ得ヘキ千馬力以上ノ地點ナキヲ以テ選定セス

第三節 天龍川

一、流域

(一)地形 本川流域ハ概シテ高峻ナル山地ニシテ東境ノ赤石山脈西境ノ木曾山脈ハ何レモ三千米乃至二千米ノ高サヲ有スル頗ル峻嶒ナル山嶺ノ連亘ニシテ本川ノ東岸ニハ亦是等主脈ト竝行シテ南方ニ走ル高サ千五、六百米内外ノ分脈アリ、其ノ他多數ノ支脈ハ主脈ヨリ分岐シテ或ハ横走シ或ハ竝走シテ流域内ニ蟠踞セルヲ以テ僅ニ上流沿川部ニ稍廣キ長サ十數里ノ伊那谷ノ沃野アル外復平地ヲ見ス、山高ハ漸次南方ニ向ツテ低下シ下流部ハ漸ク低山ノ起伏トナリ海岸ニ至リテ平野ヲ開ク

(二)地質 第一節ニ其ノ概況ヲ述ヘタルカ如ク諏訪湖ヨリ辰野ニ至ル山地ハ安山岩ニシテ辰野ヨリ下流三峰川合流附近迄ハ左岸ハ片麻岩右岸ハ沿川低地ハ洪積層山地ハ

古生層ヨリ成ル、三峰川合流ヨリ下流飯田附近迄ハ左岸ハ片麻岩ヨリ花崗岩ニ移リ右岸ハ低地洪積層、山地花崗岩及片麻岩ヨリ成ル、飯田附近ヨリ以下ハ左右兩岸トモ全部花崗岩トナリ三紀層及片麻岩之ニ介在ス、下流部ニ至リテ花崗岩盡キテ結晶片岩現ハレ更ニ古生層、三紀層トナリ二俣町附近以下第四紀層ニ移ル

(三)林野状態 本流筋ハ上流信州ニアリテハ分水嶺ニ原生良林ヲ散見スレトモ沿岸ハ概シテ疎林、雜木林ヲ見ルノミニシテ餘リ良好ナラス下流遠州ニ入レハ植林甚タ盛ニシテ杉ノ良林多シ(第一節參照)

(四)氣象状態 第一節ニ記述セシヲ以テ茲ニ贅セス

二河川狀況 天龍川ハ諏訪湖ヨリ出テテ南流シ三里ニシテ辰野ニ至リ横川川ヲ右岸ニ合シ尙南流シテ伊那谷ノ沃野ヲ灌漑シツツ大支流三峰川、小澁川ヲ左岸ニ、大田切川中田切川與田切川其ノ他幾多ノ小支流ヲ右岸ニ合シテ飯田町ニ出ツ、此ノ間流路約一七里此處ニテ松川ヲ右ニ合セ漸次峡谷ノ間ニ入りテ阿知和知野、遠山、早木、戸大、千瀬、水篋、氣田等ノ各支流ヲ順次左右ニ合シ流下スルコト約三〇里ニシテ二俣町ニ至リテ山間ヲ離レ平地ニ入り更ニ南走七里ニシテ遠州灘ニ注ク

訪湖ノ水面高海拔約二、五〇〇尺ニ過キササルニ流路ハ約五七里アルヲ以テ平均落差ハ一里ニ付僅ニ四四尺即チ勾配約三〇〇分ノ一ナリ、其ノ内湖口ヨリ辰野附近迄ハ平均二四〇分ノ一ニシテ以下飯田附近迄一八〇分ノ一乃至二六〇分ノ一、平均二二〇分ノ一トナリ飯田以下二俣迄ノ峡間ハ二〇〇分ノ一内外ヨリ漸次五〇〇分ノ一内外ニ減シ其ノ平均約三〇〇分ノ一ナリ

(三)流量變化ノ狀況 上流部ハ水源諏訪湖ノ調節作用ニヨリ變化稍少キモ支流三峯川合流以下ハ漸次各支流ノ影

天龍川流量表

△ヲ附セル行ハ昭和二年一月ヨリ三月マテノ資料ヲ充當シテ査定セルモノナリ

順位	舊順位	河川	測水所	面積	流量		流域一方里當流量				
					年次	最大	最大	最小			
一三九	二九〇	天龍川	長野縣諏訪郡川岸村大ノ田	三五、五四	大正八年 三、三三〇	六〇一	四七	二二八	九四	一、七〇	三、一
			長野縣諏訪郡川岸村大ノ田		大正九年 一、八六〇	五三二	四五	三〇八	五二	一、四七	八六
			長野縣諏訪郡川岸村大ノ田		大正十年 二、八六〇	六六一	四八	三三七	八〇	一、八六	一〇二
			長野縣諏訪郡川岸村大ノ田		大正十一年 一、一七〇	一七〇	四八	一九九	一、九	一、八六	八九
			長野縣諏訪郡川岸村大ノ田		平均	一、一七〇	五九五	四八	一、九	一、八六	九五
一四〇	二六九	同	長野縣上伊那郡飯島村田切片見山	二一、八〇〇	大正八年 一、四〇〇	一、九〇	一、五〇	一、〇七	一一三	一、六三	九〇
			長野縣上伊那郡飯島村田切片見山		大正九年 一、七九〇	一、七〇	一、四〇	一、〇七	一一三	一、六三	九〇
			長野縣上伊那郡飯島村田切片見山		大正十年 一、六九〇	一、四〇	一、四〇	一、〇七	一一三	一、六三	九〇
			長野縣上伊那郡飯島村田切片見山		大正十一年 一、三〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇七	一一三	一、六三	九〇
			長野縣上伊那郡飯島村田切片見山		平均	一、三〇〇	一、〇〇	一、〇七	一一三	一、六三	九〇

(一)河岸河床ノ狀況及地質 湖口ヨリ辰野ニ至ル迄ハ兩岸山腹稍迫リ流路一定シ岩盤ノ露出少ク河床砂礫多シ地質ハ安山岩ヲ主トス辰野ヨリ下、飯田附近ニ至ル間ハ即チ伊那谷ノ沃野ニシテ兩岸稍低ク河幅甚タ廣ク河床ニハ砂礫堆積シ處々亂流ヲナス、河ニ沿ヘル低地ハ砂礫ノ沖積層ニシテ其ノ上段ニハ洪積層ノ緩傾斜地アリ概ネ河岸ニ至リテ高キ懸崖ヲナス但シ左岸ノ一部ニハ片麻岩ヲ露出シ其ノ山腹稍急傾斜ヲナシテ河岸ニ迫ル處アリ飯田ノ下約二里時又ヲ過クレハ俄然兩岸迫リテ峡谷トナリ岩壁高ク屹立シ河幅狹ク河身一定シ河床ニ玉石多ク處々急湍激流ヲナシ屈曲稍多シ、有名ナル勝地天龍峽ハ此ノ峡谷ノ首部ニ位ス、時又以下遠州二俣町ニ至ル約二十七、八里ノ間殆ト沿川ニ平地ナク兩岸急峻ナル山際若ハ直立セル絶壁ニシテ沿岸嶮岨ノ爲未タ道路ヲ通セサル處アリ、此ノ間稍小屈曲多ク地質ハ遠州佐久間迄花崗岩ヲ主トシ中ニ片麻岩ヲ介在シソレヨリ以下結晶片岩多ク露出シ二俣附近ニ至リテ古生層ヲ見ル、二俣町ヲ過クレハ兩岸頓ニ開ケテ沖積層ノ平野トナリ河幅極メテ廣ク砂礫河床ニ堆積シテ甚タ亂流ヲナス

(二)流下勾配 本川ハ概シテ緩流ニシテ其ノ水源タル諏

響ヲ受ケ變化漸ク多シ、概シテ全川ヲ通シ毎年四月頃ヨリ流量大ニ増加シ來リテ以後十月頃迄ハ流量最豐富ニシテ且屢出水ヲ起シ變化多シ唯其ノ間夏季一時甚シク減水シテ低水量以下ニ到ル、十一月頃ヨリ翌年二三月頃迄ハ流量少ク且變化モ少ク二月前後ニ最濁水ヲ生ス但シ上流部ニテハ夏季降雨寡キト用水ノ關係トニヨリ五、六月ノ交ニ最濁水ヲ生スルコトアリ、出水ハ年ニヨリ差異アレトモ大體七月ヨリ九月ニ至ル間ニ起ルモノヲ大ナルモノトス

順位	舊順位	河川	測水所	流域積域	流量						流域一方里當流量			
					年次	最大	平水	低水	濁水	最小	最大	平水	低水	濁水
一四二	一	天龍川	長野縣下伊那郡泰阜村 西鹿笠カッヂドヤ	一九二・三	大正八年 大正九年 大正十年 大正十一年 平均	八二四〇〇 四九〇〇〇 四九〇〇〇 六九〇〇〇 六九〇〇〇	四九〇〇〇 四九〇〇〇 四九〇〇〇 四九〇〇〇 四九〇〇〇	二七〇〇〇 二七〇〇〇 二七〇〇〇 二七〇〇〇 二七〇〇〇	一三〇〇〇 一三〇〇〇 一三〇〇〇 一三〇〇〇 一三〇〇〇	一三〇〇 一三〇〇 一三〇〇 一三〇〇 一三〇〇	四四 三三 三三 三三 三三	二三四 一四三 一四三 一四三 一四三	七二 七二 七二 七二 七二	六二 七〇 七〇 七〇 七〇
一四三	同	同	長野縣下伊那郡平岡村 長島長沼	二二六・五	大正八年 大正九年 大正十年 大正十一年 平均	一八三〇〇 一八三〇〇 一八三〇〇 一八三〇〇 一八三〇〇	一八三〇〇 一八三〇〇 一八三〇〇 一八三〇〇 一八三〇〇	三五〇〇〇 三五〇〇〇 三五〇〇〇 三五〇〇〇 三五〇〇〇	二二〇〇〇 二二〇〇〇 二二〇〇〇 二二〇〇〇 二二〇〇〇	一七〇〇 一七〇〇 一七〇〇 一七〇〇 一七〇〇	二二〇 二二〇 二二〇 二二〇 二二〇	一四八 一四八 一四八 一四八 一四八	八七 八七 八七 八七 八七	八〇 八〇 八〇 八〇 八〇
一四四	同	同	静岡縣磐田郡佐久間村 佐久間道下	二七九・九	大正八年 大正九年 大正十年 大正十一年 平均	三五七〇〇 四四七〇〇 四四七〇〇 四四七〇〇 四四七〇〇	四四七〇〇 四四七〇〇 四四七〇〇 四四七〇〇 四四七〇〇	三三〇〇〇 三三〇〇〇 三三〇〇〇 三三〇〇〇 三三〇〇〇	二二〇〇〇 二二〇〇〇 二二〇〇〇 二二〇〇〇 二二〇〇〇	二九〇〇 二九〇〇 二九〇〇 二九〇〇 二九〇〇	一三三 一三三 一三三 一三三 一三三	一七五 一七五 一七五 一七五 一七五	二一〇 二一〇 二一〇 二一〇 二一〇	九六 九六 九六 九六 九六

天龍川各月流量一覽表 (自大正八年一月至大正十一年八月)

順位	測水所	流量ノ種別	月											
			一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
一三九	川岸	平均	三九	四七	六二	七九	六九	五七	八三	六五	五〇	九八	五七	四八
		最小	二六	二八	三五	四五	二〇	一七	三〇	二四	二四	五〇	四一	三九
		最大	五五	八七	九八	一七九	一三〇	一八〇	三三〇	一六四	二六〇	二〇八	八九	六四

一四〇	飯島	平均			最大			最小		
		平	最	均	平	最	均	平	最	均
二六八〇	二六〇	二六〇	二六〇	二六〇	二六〇	二六〇	二六〇	二六〇	二六〇	二六〇
五三〇〇	八三〇	九三〇	五三〇〇	九三〇	五三〇〇	九三〇	五三〇〇	九三〇	五三〇〇	九三〇
二二五〇	八四〇	二二五〇	二二五〇	二二五〇	二二五〇	二二五〇	二二五〇	二二五〇	二二五〇	二二五〇
六三〇〇	一五三〇	六三〇〇	六三〇〇	六三〇〇	六三〇〇	六三〇〇	六三〇〇	六三〇〇	六三〇〇	六三〇〇
九〇〇〇	一五三〇	九〇〇〇	九〇〇〇	九〇〇〇	九〇〇〇	九〇〇〇	九〇〇〇	九〇〇〇	九〇〇〇	九〇〇〇
一七九〇〇	一八六〇	一七九〇〇	一七九〇〇	一七九〇〇	一七九〇〇	一七九〇〇	一七九〇〇	一七九〇〇	一七九〇〇	一七九〇〇
一六六〇〇	一〇六〇	一六六〇〇	一六六〇〇	一六六〇〇	一六六〇〇	一六六〇〇	一六六〇〇	一六六〇〇	一六六〇〇	一六六〇〇
一七九〇〇	一八六〇	一七九〇〇	一七九〇〇	一七九〇〇	一七九〇〇	一七九〇〇	一七九〇〇	一七九〇〇	一七九〇〇	一七九〇〇
一〇八〇〇	七〇	一〇八〇〇	一〇八〇〇	一〇八〇〇	一〇八〇〇	一〇八〇〇	一〇八〇〇	一〇八〇〇	一〇八〇〇	一〇八〇〇
二一七〇〇	一五〇〇	二一七〇〇	二一七〇〇	二一七〇〇	二一七〇〇	二一七〇〇	二一七〇〇	二一七〇〇	二一七〇〇	二一七〇〇
八九四〇〇	一五〇〇	八九四〇〇	八九四〇〇	八九四〇〇	八九四〇〇	八九四〇〇	八九四〇〇	八九四〇〇	八九四〇〇	八九四〇〇
三二八〇	一八九〇	三二八〇	三二八〇	三二八〇	三二八〇	三二八〇	三二八〇	三二八〇	三二八〇	三二八〇
二四〇〇	一四七〇	二四〇〇	二四〇〇	二四〇〇	二四〇〇	二四〇〇	二四〇〇	二四〇〇	二四〇〇	二四〇〇

三、水利及治水 水利事業ハ灌溉及舟筏ヲ主トス

(一)灌溉 上流部伊那谷地方ハ耕地良ク開ケ水田甚タ多ク諸處灌溉ノ爲多量ニ用水ヲ引用シ居レリ主ナルモノ其ノ數二十餘、灌溉反別約二千町歩ニ達シ概ネ五月ヨリ九月頃迄ヲ取入時期トスレトモ中ニハ四季ヲ通シテ引用セラルモノアリ、其ノ他近年耕地ノ整理ニ伴ヒ水田ノ開發甚タ盛トナリ新ニ最上流部川岸村字鮎澤ヨリ大用水引用ノ計劃アリ西天龍用水ト稱シ水量約二百個ヲ取入レ反別約二千町歩ヲ灌溉スル豫定ナルヲ以テ三峯川合流點ヨリ上流ノ本川流量ハ灌溉期ニ際シテハ其ノ大部分ヲ引用シ去ララルニ至ルヘシ、伊那谷地方以下ニハ殆ト灌溉用水ノ關係ナシ

(二)舟航 上流ハ湖岸各町村ヨリ川岸村迄冬季ノ一部ヲ除キ薪炭米穀其ノ他ノ物資運搬ノ爲稍頻繁ノ往復アリ、其

ノ下ハ赤穂飯島附近ニ於テ木材、石材ノ運送用トシテ小舟ノ航行アルモ近年伊那電氣鐵道ノ開通及延長ニ伴ヒ漸次減少シツツアリ、下リテ時又以下ハ遠州鹿島迄常時舟航アリ就中信州ニテ時又、滿島間、遠州ニテ西渡、鹿島間ニ多數ノ航行ヲ見ル、是等ハ日用品ノ運輸ヲ主トスレトモ西渡ヨリハ其ノ外附近久根鑛山ヨリ採掘セル鑛石ヲ搬出スルモノト定期ニ旅客ヲ輸送スルモノトアリ

(三)流筏 上流ニテハ湖畔各町村ヨリ川岸村迄嚴寒ノ候ヲ除キテ流筏行ハル杉、松、檜、樅等ノ建築用材ニシテ數量ハ著シカラス、川岸村以下ハ小區間流筏ナキモ宮田村附近ヨリ下流ハ沿岸各町村ヨリ搬出セラルルモノ相當盛ニシテ附近村落ノ建築材トセラルルノミナラス遠ク遠州方面迄流下運送セラルル其ノ數量ハ伊那電鐵開通ニ伴ヒ漸次減少シ來レリ、下リテ平岡村以下ハ本流ノミナラス支流和知野

川、遠山川、大千瀬川、水窪川、氣田川等ヨリ流木トシテ流下シ來ルモノ各其ノ合流點ニ於テ筏ニ組ミ本川ヲ流下スルヲ以テ下流ニ至ルニ從ヒ數量次第ニ増加シ一箇年十萬尺ハ内外ニ達シ一部ハ遠州中部ニテ引揚ケ製紙用ニ供シ他ハ遠ク天龍川驛ニ下シテ鐵道輸送トナス、材種ハ松、杉、樺、楡、栗等、遠州ハ杉材ヲ主トス、ニシテ筏ノ長サハ普通二〇尺ヲ限度トシ殆ト四季ヲ通シテ行ハル

(四) 其ノ他 漁業ハ上流部ニ於テ稍盛ニシテ春夏秋ノ三季間、鱒、鯉、赤魚、鮎等ヲ釣、網、埋籠、築等ノ方法ニヨリ漁獲シツツアルモ中流以下ハ餘リ盛ナラス、水車ハ川岸村地内ニ四箇所アリ水量各半個ニ足ラス、治水ハ上流伊那谷附近ニ堤防護岸工事處々ニ施行セラレ又最下流鹿島以下ニテ築堤工事アルノミ

(五) 許可水力地點 稍下流部ニ二箇所アルノミ一ハ愛知縣下ニ於ケル東邦電力工事中ノモノ他ハ其ノ下遠州佐久間村地内ニ於テ王子製紙會社中部工場ニテ發電利用セル小馬力ノモノナリ、然レトモ同工場ニテハ右ノ外工場用水トシテ當時五〇〇個以上ノ水量ヲ引用シ居レリ

四、水力地點 本川ハ前記ノ一小部分ヲ除ケハ全部水利使用未許可ニ屬スルヲ以テ將來開發セラルヘキ水力地點

極メテ豊富ニシテ先ツ上流ニ於テハ諏訪湖口ヨリ下流約一里ノ處ヨリ辰野附近迄距離約一里半此ノ落差約一一〇尺ヲ利用區域トシソレヨリ下流伊那村猿岩附近以下氣田川合流附近迄約三六里ノ間適宜數地點ニ分チテ之ヲ利用シ得ヘシ其ノ總落差約一、七三〇尺ニシテ其ノ内勝區天龍峽附近並東邦電力許可地點區域ヲ除キタルモノヲ中流利用區域トス下流部鹿島村附近屈曲部ハ落差小ナリト雖亦相當利用シ得ヘシ

前記中流利用區域ハ兩岸概ネ峻峻ニシテ道路甚タ險惡ナルノミナラス其ノ一部ニハ通路全ク無キ處アリ工事ニ際シ材料並發電用諸機械等運搬ノ爲沿川ニ軌道布設ヲ必要トスヘシ將又此ノ區間ニハ舟筏ノ航行甚タ多クシテ旅客ノ往復、物資ノ出入、木材ノ搬出等一ニ河川ヲ利用シ居ラサルナキ状態ニアルヲ以テ若シ軌道布設等運輸機關ヲ特設セサル限リハ利用ニ際シテ之カ航通ノ爲多量ノ水ヲ分ツヲ要スヘク地點利用上不利益タルヲ免レサルヘシ

本川地點ハ落差ニ比シ水路亘長稍長ク且地質ハ一部ヲ除キ概シテ不良ニシテ工事困難ノ處多ク利用上甚タ有利ナリトハ稱シ難キモ一河川ヲ通シテ連續的ニ大水力ヲ利用シ得ルヲ以テ之ヲ一括シテ送電シ得ル利便アルト其ノ

位置東海道線ニ近ク鐵道電化其ノ他ノ利用ノ途ニ富ムヲ以テ將來甚タ有望ナル地域タルヲ失ハサルナリ

本川流量ハ下流ニ至ルニ從ヒ漸次其ノ割合ヲ増加シ一

天龍川水力地點表

順位	河川	番地號點	取入口	放水口	水量	落差	馬力數	亘長路	面積域	發電率	年平均馬力數	等級
五五〇	天龍川	一	長野縣諏訪郡川岸村初ノ又	上伊那郡朝日村上平出	湧水 三三六 低水 四三五 平水 五九四	三八	一、四一六 一、八三四 二、五〇五	一、六〇〇 三、五三三	一〇〇〇 九七三 八九〇	一四一六 一七八四 二二三元	乙	
五五一	同	二	長野縣上伊那郡伊那富村辰野上辰野	同郡伊那富村上辰野	湧水 三四一 低水 四四二 平水 六〇四	五八	二、一九五 二、八四五 三、八八八	一、三〇〇 三、五九三	一〇〇〇 九七三 八九〇	二二九五 二七六八 三四六〇	甲	
五五二	同	三	長野縣上伊那郡伊那富村大久保猿岩	同郡南原村	湧水 八六二 低水 一二六〇 平水 一、七六〇	三四〇	三二、五三二 四七、五五二 六六、四二三	二、二六〇 一〇、五五六	一〇〇〇 九六三 八七二	三、一三三 四、五七三 五、七九二	乙	
五五三	同	四	長野縣下伊那郡生田村福與	同郡神野村	湧水 一、二三〇 低水 一、八〇〇 平水 二、五二〇	一二八	一七、四七五 二五、五七四 三五、八〇四	三、九〇〇 一四、六四〇	一〇〇〇 九六三 八七二	一七、四七五 二四、六七 三二、三二	甲	
五五四	同	五	長野縣下伊那郡神野村伴野	同郡下久堅村	湧水 一、二三〇 低水 一、八〇〇 平水 二、五二〇	八六	一七、四七五 二五、五七四 三五、八〇四	三、九〇〇 一四、六四〇	一〇〇〇 九六三 八七二	二二、四七一 二六、五四六 二〇、九七五	乙	

順位	河川	番地 號點	取 入 口	放 水 口	水 量	落 差	馬 力 數	互 水 長 路	面 積 域	能 率 電	年 平 均 馬 力 數	等 級
五五五	天龍川	六	長野縣下伊那郡泰阜村 金野郡泰阜村	大同郡 泰阜村	湧水一、六〇〇 低水二、三四〇 平水三、二七〇	一五〇	二六、六四〇 三八、九六一 五四、四四八	六〇〇〇	一八九九〇	一〇〇〇 九六三 八七二	二六、六四〇 三七、五二九 四七、四七八	丙
五五六	同	七	長野縣下伊那郡大下條村 北條御供	長岡郡 平岡村	湧水一、六六〇 低水二、四三〇 平水三、四〇〇	九八	一八、〇五七 二六、四三三 三六、九八五	三七八〇	一九七六九	一〇〇〇 九六三 八七二	一八、〇五七 二五、四四四 三三、二五〇	丙
五五七	同	八	長野縣下伊那郡福原村 福島福原村	愛知縣 北設樂郡 富山原村	湧水二、三八〇 低水三、二三〇 平水四、四二〇	一五〇	三九、六二七 五三、七八〇 七三、五九三	五一六〇	二四〇四七	一〇〇〇 九六五 八七七	三九、六二七 五一、八九八 六四、五四一	丙
五五八	同	九	静岡縣磐田郡佐久間村 佐久間神馬	同久郡 佐久間下	湧水二、四五〇 低水三、三二〇 平水四、五五〇	九四	二五、五六三 三四、六四〇 四七、四七四	三四八〇	二四七三九	一〇〇〇 九六五 八七七	二五、五六三 三三、四七 四一、六三四	丙
五五九	同	一〇	静岡縣磐田郡佐久間村 佐久間半場	横山郡 龍川村	湧水二、七〇〇 低水三、六四〇 平水五、〇〇〇	一八〇	五三、九四六 七二、五二七 一〇〇、〇九九	二二八八〇	二七、一九〇	一〇〇〇 九六五 八七七	五三、九四六 六九、九八八 八七、七八六	丁
五六〇	同	一一	静岡縣磐田郡二俣町 西鹿島	濱名郡 中瀬村	湧水三、二〇〇 低水四、三四〇 平水五、九六〇	二〇	七、一〇四 九、六三三 一三、二三一	三三〇〇 一五、〇〇〇	三三三九〇	一〇〇〇 九六五 八七七	七、一〇四 九、一五八 一一、六〇四	丙

水力地點ノ説明

順位五五〇及順位五五一 前者ハ左岸ニ後者ハ右岸ニ

取入レ水路ハ大部分開渠トス

順位五五二 本地點ハ左岸ニ取入レ水路ハ大部分隧道

トス途中約三〇〇間ノ築堤ヲ要スル處アリ又取入水面ハ若干高ムルコトヲ得ヘシ

第四節 三峰川

順位五五三及順位五五四 小澁川合流下宮瀬橋上ニ取入レ之ヲ二段ニ發電ス水路ハ前者ハ大部分開渠トシ後者ハ開渠隧道稍相半ス

一、流域 三峰川ハ天龍川上流部左岸ニ注ク支流ニシテ其ノ流域ハ信州上伊那郡ノ東部ヲ占メ面積約三三方里有ス

順位五五五 本地點ハ米川合流下ニ堰堤ヲ築キ水面ヲ二〇尺高メ左岸ニ取入レ殆ト全部隧道ニヨリ導水ス

(一)地形 南北ニ長ク東西ニ狭ク概ネ高峻ナル山地ニシテ東方ニハ赤石山脈ノ高峰連互シテ以テ富士川大井川水系トノ分水界ヲナス、地勢ハ大體東南ヨリ西北ニ向ツテ傾斜シ西北部高遠町附近ニ至リテ山勢盡キテ伊那谷平野ニ接續ス

順位五五七 本地點ハ早木戸川合流上ニテ右岸ニ取入レ早木戸川ノ水ヲ合セ水路ハ全部隧道トス

(二)地質 東方ニ秩父古生層中央ニ結晶片岩、西方ニ片麻岩相竝行シテ南北ニ走ル又結晶片岩中ニハ處々ニ蛇紋岩ヲ介シ尙其ノ北端ニ安山岩アリ、高遠町ヨリ下流ハ洪積層ナリ

順位五五八 本地點ハ湯島發電所下ニテ左岸ニ取入レ隧道ニヨリ佐久間ニ導水シ順位五五九取入口ニ放流ス

(三)林野狀態 流域ノ南部即チ水源地方及東境ノ山脈ハ御料林ニ屬シ針葉樹ヲ主トスル原始林ニシテ樅桐其ノ他ノ大樹密生セリ年々之ヨリ伐採シツツアル數量二、三萬尺

順位五五九 本地點ハ右岸ニ取入レ水路ハ全部隧道トス

ベヲ下ラスト雖主トシテ擇伐法ニ依ルヲ以テ著シキ影響ヲ及ホサス、御料林以外ハ概ネ公有林ニシテ支流山室川上流ニ稍良好ナルモノアル外疎林ヲ主トスルモ植林ハ相當

順位五六〇 本地點ハ天龍橋上ニ取入レ一隧道ニヨリ直ニ發電所ニ導キ放水路ヲ長ク中瀬村渡舟場附近迄延長シテ本川ニ還流セシム又取入口ノ下流ニ開門ヲ設ケ放水路ト連絡セシメ舟筏ヲ放水路ニ航行セシムモノトス

盛ニ行ハレツツアリ

(四)氣象狀態 中流沿岸市野瀬ニ於ケル大正九、十兩年平均ノ年降水量ハ一、七二五耗平均氣温ハ九九度ヲ示セルモ流域ハ高峻ナル山地ヲ主トスルヲ以テ一般ニ降水量ハ之ヨリ稍多ク氣温ハ之ヨリ低シ

二、河川狀況 三峰川ハ水源ヲ東境ノ最高峰仙丈ヶ嶽(三〇三三米)ノ溪間ニ發シ初メ南流シテ流域ノ南端ニ至リソレヨリ西北ニ急轉シ波狀ヲ畫キツツ大體北流シテ市野瀬ニ出ツ、此ノ間兩岸山腹頗ル急峻ニシテ河川全ク深溪ヲナシ處々懸崖ヲ現シ流勢亦急ニシテ四〇分ノ一乃至六〇分ノ一ノ勾配アリ然レトモ地質ハ古生層結晶片岩等ノ脆弱ナル古層ニシテ崩壞多ク土砂ノ流出甚シク河水常ニ濁濁シ河床砂礫ノ堆積セル處多シ市野瀬ヲ過クレハ沿岸稍開

三 峯 川 流 量 表

△ヲ附セル行ハ翌年一月ノ資料ヲ充當シテ査定セルモノナリ

順位	舊順位	河 川	測 水 所	面積	流 量				流 域 一 方 里 當 流 量					
					年 次	最 大	平 水	低 水	最 小	最 大	平 水	低 水	最 小	
一四四	二六	三 峯 川	長野縣上伊那郡伊那里村 浦平瀬	七七七	大正八年 (二月)	一五〇〇	一八四	一〇七	八二	二〇五	二五〇	一四五	一一一	一一一
					大正九年 (五月)	二二〇〇	二七	二七	八二	二八九	二三三	一七二	一一一	一〇一
					大正十年 (七月)	一八〇〇	二二	九四	五	二五五	三二五	二二八	八八	八二
					大正十一年 (七月)	七九	一九六	一九	七六	一〇六	二六六	一四八	一〇三	六九
					平 均									

ケ河幅漸ク増大シ岩盤ノ露出少ク砂礫堆積甚タ多ク流身常ニ定マラス勾配モ頓ニ減シテ八〇分ノ一乃至一〇〇分ノ一トナル、市野瀬ヨリ下流高遠町ニ至ル迄約四里此ノ間黒川山室、藤澤ノ各川右岸ニ合流ス、高遠町ヨリ方向ヲ西方ニ轉シ之ヨリ河幅益廣ク河床亦益荒廢シ三里餘ニシテ天龍川ニ合ス
支流黒川川ハ上流ヲ小黒川ト稱シ流域東北隅ニ發シテ南流シ戸臺川ヲ合セテ黒川川トナリ西流シテ三峰川ニ合ス、兩岸急峻ニシテ諸處ニ崩壞アリ河幅廣ク河床土砂堆積夥シク下流ハ亂流ヲ極ム、流下勾配ハ急ニシテ三〇分ノ一内外アリ
三峰川流量變化ノ狀ヲ見ルニ毎年三月ヨリ漸次流量増加シ四月ヨリ十月頃迄ハ屢出水ヲ起シテ變化多ク且一般

一四五	同	長野縣上伊那郡高遠村 上高遠	二四〇〇	大 正 年 代			
				大正八年	大正九年	大正十年	大正十一年
			三〇〇〇				
			一三〇〇				
			一四〇〇				
			一八〇				
			一八				
			五三				
			五				
			七四				
			六六				

ニ水量豊富ナリ此ノ間八月前後ニ一時大ニ減水スルコトアルモ濁水量迄ハ下降セサルコト多シ十一月以降ハ概シテ流量少ク變化モ著シカラス二月前後ニ濁水ヲ生ス

三、水利及治水 本川ハ流水盛ニシテ上流部御料林ヨリ流下スルモノヲ主トシ數量年々二、三萬石ヲ下ラス毎年十月ヨリ翌年四月迄本川ヲ流下シ天龍川合流點ニテ引揚ク

材種ハ樺、檜、檜、榎、落葉松等ニシテ主トシテ建築用材トナス黒川川ニモ多少ノ流水アレトモ其ノ量著シカラス。用水ハ中流以下多少ノ耕地開ケ之カ灌漑ノ爲五月始ヨリ十月末迄本川及黒川川ノ水ヲ引用シ居レリ、高遠町以下ハ田圃廣ク開ケ多量ノ用水ヲ引用シツアルモ利用區域ニハ關係ナシ。水車ハ中流市野瀬附近ニ於テ左岸ヨリ取入ルルモノ一箇所アリ水量約五個製板用ニシテ四時引用セラル。治水其ノ他關係ナシ

許可水力地點ハ中流部ニ京濱電力未設ノ二大地點アリ

其ノ上流地點ハ支流黒川川ノ氷ヲ並用スルモノトス、其ノ他支流山室川中流部ニ高遠電燈ノ小地點一アリ
四、水力地點 本川ハ上流部船形谷合流附近ヨリ下流高遠町ニ至ル約六里間落差一千百餘尺ヲ利用區域トシ五地點ヲ選定セルモ其ノ最上流地點ヲ除ク外ハ京濱電力ニ許可セラレ又支流黒川川ハ下流約一里落差約三六〇尺ヲ以テ選定地點トセシモ之亦本川同様京濱電力ニ許可セラレタリ

本川ハ其ノ沿岸地質脆弱ニシテ崩壞ヲ來シ易ク工事稍困難ナルノミナラス土砂放出甚シク水質常ニ濁濁シ居ルカ故ニ利用上甚タ有利ナルモノト稱シ難ク且中流市野瀬附近以下ハ縣道開通シ居リテ運搬ノ便アルモ市野瀬ヨリ上流ハ通路險惡ナルヲ以テ別ニ道路ヲ開鑿スルヲ要スヘシ

三峯川水力地點表

順位(一)ア附セルハ許可地點ト關係アリ
落差ニ*ヲ附セルハ概定數ナリ

順位	河川	番地 號點	取 入 口	放 水 口	水 量	落 差	馬 力 數	亘水 長路	面流 積域	能發 率電	年平 均馬 力數	等 級
五六一	三峯川	一二	長野縣上伊那郡伊那里村 浦東菰立	同郡伊那里村 浦	湯水 七二 低水 一〇三 平水 一八五	三九〇	三、一六 四、四五八 八、〇〇八	二、五四〇	六九七	一〇〇〇 九五七 八一四	三、二一六 四、二六六 六、五二八	甲
(五六二)	同	一三	長野縣上伊那郡伊那里村 浦前浦	同郡伊那里村 市野濱	湯水 一〇〇 低水 一四三 平水 二五七	*二一〇	二、三三一 三、三三三 五、九九〇	二、四四〇	九六六	一〇〇〇 九五七 八一四	二、三三一 三、一八九 四、八七五	甲
(五六三)	同	一四	長野縣上伊那郡伊那里村 市野濱	同郡伊那里村 飯島	湯水 一一六 低水 一六五 平水 二九七	*一五〇	一、九三一 二、七四七 四、九四五	一、八〇〇	一一八	一〇〇〇 九五七 八一四	一、九三一 二、六八 四、〇〇五	甲
(五六四)	同	一五	長野縣上伊那郡美和村 黒河内 女澤渡	同郡原河南村 勝間	湯水 一九四 低水 二七五 平水 四九五	一六〇	三、四四五 四、八八四 八、七九一	一、〇六〇	一八六	一〇〇〇 九五七 八一四	三、四四五 四、六七三 七、一五五	甲
(五六五)	同	一六	長野縣上伊那郡河南村 勝間 原勝間	同郡河南村 瀬戸河原	湯水 一九四 低水 二七五 平水 四九五	九五	二、〇四五 二、八九九 五、二二〇	一、九七五	一八六	一〇〇〇 九五七 八一四	二、〇四五 二、七四 四、二四九	甲
(五六六)	黒川川 (三峯川支)	一七	長野縣上伊那郡美和村 黒河内 尾勝谷落合	同郡美和村 黒河内	湯水 六三 低水 八九 平水 一六〇	*三三〇	二、三〇八 三、二六〇 五、八六一	二、〇八〇	六〇二	一〇〇〇 九五七 八一四	二、三〇八 三、二一〇 四、七七〇	甲

水力地點 説明

順位五六一 本地點ハ左岸ニ取入レ水路ハ隧道トス



順位五六二及順位五六三 本地點ハ左岸ニ水路ヲ設ケ
連續利用ス、コノ二地點及順位五六六ノ地點ハ京濱電力ニ
許可セラレ三地點ヲ合シテ一地點トシテ利用スル計畫ナ
リ

順位五六四及順位五六五 本地點ハ左岸ニ取入レ二段
ニ發電ス、此ノ二地點モ亦京濱電力ニ許可セラレタリ

第五節 小澁川

一、流域 小澁川ハ三峰川合流點ノ下流ニ於テ天龍川左
岸ニ合流スル支川ニシテ其ノ流域ハ三峰川ノ南ニ接シ下
伊那郡ノ東北隅ヲ占メ面積約十九方里半ヲ有ス

(一)地形 稍南北ニ廣ク東西ニ狹ク全部高峻ナル山地ニ
シテ殆ト平地ヲ見ス其ノ東南方ハ赤石山脈ノ主脈連山ニ
シテ高峰峻嶺重疊シ以テ大井川上流部トノ分水界ヲナシ
其ノ支脈ノ南方ヨリ西方ニ走ルモノハ南、遠山川ヲ境シ東
方ヨリ北西ニ走ルモノハ北、三峰川トノ分水嶺トナル地勢
ハカクシテ大體西ニ向ツテ漸次低下シ河流ハ西走シテ天
龍川ニ合ス

(二)地質 流域ノ東南部ハ古生層ニシテ之ニ隣接シテ中
央部ヲ南北ニ狹ク縦貫スル結晶片岩アリ之カ西方ニハ片

麻岩稍廣ク存シ本川下流部ニハ又花崗岩ヲ露出セリ

(三)林野狀態 流域ノ東南部即チ水源地方ハ御料林ニ屬
シ未タ斧鉞ノ入ラサル原生密林ニシテ樺、椴、扁柏、榎等ノ老
樹ヨリ成ルモノ下ルニ從ヒ漸次疎林トナリ下流部ハ雜木林
ノミトス、北部鹿鹽川上流沿岸ハ無立木地多ク極メテ不良
ナリ、支流青木川流域ニハ針濶混淆ノ良林アレトモ目下盛
ニ伐採セラレツツアリ

(四)氣象狀態 降水量ハ上流、下流ニテ其ノ量ヲ異ニシ上
流高山部ニ多ク下ルニ從ヒ稍減少ス、上流釜澤及中流大河
原ニ於ケル大正九、十年年平均降水量ハ夫々二、一九四耗
及一、八四二耗ナリ

二、河川狀況 小澁川ハ流域東南隅ニ聳ユル赤石嶽三、一
二〇米ニ發シ赤石連山ノ諸溪流ヲ集メツツ北西流シ大河
原ニ至リテ南岸ニ青木川ヲ合セテ北方ニ向ヒ更ニ北ヨリ
鹿鹽川ヲ合セテ再方向ヲ西北ニ轉シ山脚ヲ迂迴シツツ末
流ハ西方ニ向ヒテ天龍川ニ合ス、大體屈曲少ク沿川崩壞地
甚タ多キ爲殆ト全川ニ亘リテ河床著シク荒廢セリ、上流部
ハ兩岸山腹急傾斜ヲナシテ相迫リ河川ハ全ク深溪ヲナシ
河幅狹ク處々絶壁ヲナシ二〇分ノ一前後ノ急勾配ヲ有ス、
中流大河原附近ニ至レハ河岸稍開ケ山腹ニ大崩壞散在シ

河幅頓ニ増大シテ河床ハ砂礫亂積シ勾配モ減シテ五〇分ノ一前後トナル下リテ鹿鹽川ヲ合スルニ至リテ再ヒ峡谷ノ中ニ入り岩盤露出巨巖河床ニ横ハリ水勢亦稍急ナレトモ漸ク下レハ河床ハ再ヒ荒廢ノ狀ヲ呈シ勾配ハ一〇〇分ノ一前後ニ降ル

支流鹿鹽川ハ流域ノ北端ヨリ發シ南流シテ小澁川ニ合ス右岸ハ山腹ノ傾斜稍急ナレトモ左岸ハ緩ニシテ且崩壞地多ク河床ハ荒廢シ屈曲少ク四〇分ノ一内外ノ勾配アリ。

小澁川流量表

順位	舊順位	河川	測水所	流域面積	流量				流域一方里當流量					
					年次	最大	平水	低水	濁水	最小	最大	平水	低水	濁水
一四六	三〇〇	小澁川	長野縣下伊那郡大鹿村大河原補谷	一五三四	大正八年 三二〇〇	三三〇	二九四	二七五	一五七	八〇	二三八	一九二	一一四	一〇二
					大正九年 一七二〇	二九〇	二四九	一八〇	二二	二二	一八九	一六二	二二七	九
					大正十年 一九三〇	三〇八	二〇七	一八〇	二六	二六	二二七	一三五	八六	八二
					大正十一年 七三〇	三三〇	二五〇	二二二	二二	二二	二二七	一三五	八六	八二
					平均	三三〇	二五〇	二二二	二二	二二	二二七	一三五	八六	八二
一四七		鹿鹽川	長野縣下伊那郡大鹿村鹿鹽下島	五六一	大正八年 三二二〇	一	一	一	一	一	一	一	一	一
					大正九年 一六八〇	一	一	一	一	一	一	一	一	一
					大正十年 一〇〇〇	一	一	一	一	一	一	一	一	一
					大正十一年 四九四	一	一	一	一	一	一	一	一	一
					平均	一	一	一	一	一	一	一	一	一

鹽川ハ流域東境ヨリ發シ西流シテ鹿鹽川ニ合スルモノニシテ屈曲少ク兩岸相迫リテ峡谷ヲナシ勾配ハ極メテ急ニシテ平均一五分ノ一ヲ超エ瀑流ヲナス本川モ崩壞地多ク河床ハ玉石砂礫堆積シ岩盤ノ露出甚タ多シ
沿川部ノ地質ハ本流上流部ノ古生層ノ外ハ本支流共概ネ結晶片岩及片麻岩ノ古層ヨリ成レリ又本流ノ下流ニハ一部花崗岩ヲ露出ス
本川流量變化ノ狀況ハ天龍川、三峰川等ト大差ナキヲ以

テ記述ヲ略ス

三水利及治水 流木ハ毎年十月ヨリ翌年三月ニ至ル間本流及鹿鹽川ノ各上流ヨリ行ハレ梅、樺、扁柏、榎等ヲ徑三尺長二〇尺迄ノ大サトナシ本流ニテハ上流一、二箇所ニ鐵砲堰ヲ作リテ流下ス數量年額五千尺以上ニシテ天龍川合流點ニ至リテ引揚ケラル又支流青木川流域ヨリ産出スル

小澁川水力地點表 落差ニ*ヲ附セルハ概定數ナリ

順位	河川	番地點	取入口	放水口	水量	落差	馬力數	亘水長路	流域面積	發電率	年平均馬力數	等級
五六七	小澁川	一八	長野縣下伊那郡大鹿村大河原釜澤	大河原落大鹿村合村	平水 五二 低水 七九 濁水 一〇四	*六〇〇	三、四六三 五、二六一 六、九二六	三七〇〇	四八六	一〇〇〇 九五二 八七五	三四六三 五〇〇八 六〇六〇	甲
五六八	同	一九	長野縣下伊那郡大鹿村大河原落合村	同郡生田村奈村	平水 一六一 低水 二四七 濁水 三二六	六〇〇	一〇、七二三 一六、四五〇 二九、七一一	五七六〇	一五・七	一〇〇〇 九五二 八七五	一〇七三 一五六〇 二五九八	甲
五六九	鹿鹽川	二〇	長野縣下伊那郡大鹿村北大鹿村	大河原落大鹿村合村	平水 二一 低水 三七 濁水 五八	*六六〇	一、五三八 二、七一〇 四、二四九	二七八〇	二六六	一〇〇〇 九五〇 八五一	一五三八 二五七四 三六二五	甲
五七〇	鹽川	二一	長野縣下伊那郡大鹿村梨原	同郡鹽大鹿村	平水 一五 低水 二六 濁水 四〇	*六〇〇	九九九 一、七三一 二、六六四	七〇〇	一八三	一〇〇〇 九五〇 八五一	九九九 一六四四 二二六七	甲

木材ハ年額夥シキ數量ニ上ルモ沿川ニ軌道ヲ布設シ搬出シ居レリ。用水ハ中流部大河原市場ニテ附近水田約三〇町歩ニ引用スル島川原井アリ支流ニハ鹿鹽井、鹽川井等沿岸ノ小水田ニ引用ノモノ二、三アリ四時引用ス。水車ハ支流青木川鹿鹽川、鹽川ニ製板用動力トシテ使用ノモノ數箇所アリ、漁業ハ多少アルモ言フニ足ラス、治水事業ハ中流大

河原附近ヨリ鹿鹽川合流迄右岸ニ護岸工事ノ施行サレアルノミ

本川ニハ許可水力地點ナシ

四水力地點 本川ハ益澤以下全部約五里間落差約一、三〇〇尺、鹿鹽川ハ下流約一里半落差約七三〇尺、鹽川ハ下流約半里落差約六六〇尺ヲ以テ利用區域トナス

水力地點ノ説明

順位五六七 本地點ハ右岸ニ取入レ水路ハ殆ト全部隧

道トス
順位五六八 本地點ハ鹿鹽川合流下左岸ニ取入レ水路ハ同前トス

順位五六九及順位五七〇 本地點ノ水路ハ右岸トシ隧道開渠略相半ス

第六節 松川

一、流域 本川ハ天龍川中流部ニ於テ其ノ右岸ニ注ク小支流ニシテ流域ハ下伊那郡ノ西北隅ヲ占メ面積約六方里半ニ過キス、其ノ水源ハ木曾山脈ニ屬スル高サ二千二、三百米ノ高峻ナル山嶽ニシテ上流部ハ地勢甚タ峻峻ナレトモ下流部ハ漸次低山ノ起伏トナリ沿川平野ヲ廣開ス。地質

ハ上流山地ハ大體花崗岩ニシテ片麻岩其ノ一部ヲ占メ下流部ハ洪積層及沖積層ナリ。林野狀態ハ概シテ不良ナリ、少許ノ御料林ニ屬スル良林アル外疎林及雜木林ヲ主トス。年降水量ハ略本水系内ノ中位ニ當リ下流部飯田ニ於ケル大正八、九及十ノ三箇年平均ノ値ハ一、八〇三ヲ示セリ

二、河川狀況 本川ハ念丈ヶ嶽(二、二九一米)ヨリ發シテ南流シ漸次東方ニ轉向シテ飯田附近ニテ天龍川ニ注ク、中流以上ハ兩岸急峻深溪ヲナシ處處々絶壁ヲナセトモ下流部ニ至レハ兩岸漸次開ケ河幅モ從ツテ増大シ河床ニハ砂礫堆積セリ、流下勾配甚タ急ニシテ中流部三〇分ノ一内外、下流部ニ至ルモ六〇分ノ一内外アリ

三、水利及治水 流水ハ上流ニ多少行ハレ灌漑用水ハ下流部ニノミ引用セラルル許可水力地點ハ二箇所ニシテ上飯田村地内盤平ヨリ吹嵐下流ニ至ル迄ヲ二段ニ利用シ居レリ、上流ノ分ハ千馬力以上、下流ハ同未滿ニシテ共ニ伊那電氣鐵道ノ經營ニ屬シ既ニ發電ヲ開始シ居レリ

四、水力地點 本川略中流部、許可地點ノ上流一里弱間ヲ利用區域トシ之ヲ一地點トナシ水路ハ左岸ニ設ケ大部分隧道トス

松川水力地點表

水量、落差ニ*ヲ附セルハ概定數ナリ

順位	河川	番地號點	取入口	放水口	水量	落差	馬力數	互水長路	面積	發電率	年平均馬力數	等級
五七一	松川	二二	長野縣下伊那郡上飯田村一ノ瀬	同郡上飯田村	湯水 * 三七 低水 * 六二 平水 * 八〇	* 四八〇	一、九七一 三、三〇三 四、二六二	一、三八〇	二、九一	一〇〇〇 九四五 八七三	一、九七一 三、三〇三 三、七〇〇	甲

第七節 阿知川

一、流域 阿知川ハ松川ノ南隣ニ位シ其ノ流域下伊那郡ノ西北部ヲ占メ面積約一四方里餘ヲ有ス

(一)地形 中流部ニ二、三ノ緩傾斜地ヲ有スル外概シテ高峻ナル山地ニシテ北ハ松川流域、南ハ和知野川流域ニ境ヲ接シ西ハ木曾山脈ノ主脈ヲ以テ木曾川流域トノ分水界ヲナス、從ツテ地勢ハ大體西ヨリ東ニ向ツテ傾斜セリ

(二)地質 殆ト全部花崗岩ヨリ成リ西境惠那山附近ニ少面積ノ石英斑岩、北境飯田峠附近ニ片麻岩層及中央部駒場附近ニ洪積層ノ介在ヲ見ルノミ

(三)林野狀態 上流部神坂山附近等ニ樅、榎等ノ針葉老樹ノ稍密生セルヲ見ルモ他ニハ密林ナク殆ト雜木林ノミナリ下流部ハ雜木疎林ノ外針葉樹林ヲ散見スルモ概シテ

狀態良好ナラス

(四)氣象狀態 年降水量ハ略本水系中ノ中位ニ相當スルモ大體上流部ニ多ク下流部ニ少シ、上流清内路及下流下川路ニ於ケル大正九、十兩年年平均降水量ハ夫々二、三、二四耗及一、五八三耗ヲ示セリ

二、河川狀況 阿知川ハ上流ヲ黒川ト稱シ流域ノ北端摺古木山(約二、二〇〇米)ニ發シ南流シテ智里村ニ至リ本谷川ヲ右岸ニ合シテ阿知川トナリ之ヨリ大體東流シテ天龍川ニ合ス、本谷川合流迄ハ兩岸急峻ニシテ溪谷ノ狀ヲナシ河幅モ狭ク諸處岩盤ヲ露出シ河床玉石砂利多シ此ノ間屈曲少ク二五分ノ一乃至三〇分ノ一ノ勾配アリ、合流後ハ沿岸稍開ケ殊ニ晝神及駒場附近ニハ稍廣キ低地ヲ展ヘ流勢モ少シク緩トナリ河幅増大シテ河床砂礫多ク稍亂流ヲナス、下流中關以下ハ再ヒ兩岸高ク迫リテ峽谷トナリ河幅窄マ

リテ岩盤ヲ露出シ屈曲多ク河床ハ玉石ヲ主トシ四五分ノ一内外ノ勾配ヲ有ス。流路ノ地質ハ駒場附近ノ外ハ悉ク花崗岩ニシテ兩岸ニ露出セル岩盤ハ表面風化セラレテ脆弱トナレルモノ多シ。本谷川ハ西境惠那山ノ東麓ニ發シ

阿知川流量表

順位	舊順位	河川	測水所	面積	流域				流域一方里當流量					
					年次	最大	平水	低水	湯水	最小	最大	平水	低水	湯水
一四八	三〇四	阿知川	長野縣下伊那郡會地村 春日中關	二六三	大正八年 一、二一〇	三三二	二四四	一三〇	八八	一〇四	二六七	二〇〇	一一二	七六
					大正九年 一、二五〇	三二八	二四四	一四〇	一〇四	一五五	二四八	一九三	一一五	七六
					大正十年 一、三三〇	三三六	二七八	一六〇	一三〇	二八五	三三五	二二九	一一五	七六
					大正十一年 一、三九〇	三三二	二四九	一四八	一〇四	一九七	二七七	二二四	一一五	七六
					平均	三三二	二四九	一四八	一〇四	一九七	二七七	二二四	一一五	七六

東流シテ阿知川ニ合ス、兩岸急峻ニシテ三〇分ノ一前後ノ急勾配ナリ
流量變化ノ狀況ハ天龍川其ノ他ト略相同シ

三水利及治水 流木ハ上流黒川及本谷川ニ主トシテ十月ヨリ翌年四月ニ至ル間ニ行ハル材種ハ樺、椴其ノ他雜木ニシテ年額約一萬五千尺ニアリ建築材及薪材ニ供セラル、本谷川ニハ數箇所ニ鐵砲堰ノ設ケアリ。用水ハ上流畫神附近其ノ他沿岸ノ僅少ナル水田ニ引用スル少許ノモノニ、三アリ。水車ハ上流黒川筋下清内路附近ニ製板用トシテ四季十數個ノ水量ヲ引用セルモノニ箇所及中流駒場地内ニ精米及製板用トシテ少量ヲ取水セルモノ一箇所アリ

漁業著シカラス、治水工事ナシ
許可水力地點ハ上流智里村内ニ伊那電氣鐵道及下流下條村内ニ南信電氣計畫ノモノ千馬力以上各一アリ前者ハ工事未着手後者ハ工事中ニ屬ス、其ノ外千馬力未滿ノモノニハ中流駒場地内ニ伊那電氣鐵道、下流立石地内ニ三種村營ノ既設發電所各一アリ
四、水力地點 殆ト全川利用シ得ヘク其ノ内許可地點區域ヲ除キ上流黒川ニテ約一里間落差約四九〇尺及本流ニ

ア大澤川合流以下約二里間落差約四五〇尺竝本谷川ニ於テ下流一里弱ノ間落差約二七〇尺ヲ以テ利用區域トナス

阿知川水力地點表 落差ニ*ヲ附セルハ概定數ナリ

順位	河川	番地點	取入口	放水口	水量	落差	馬力數	互水路	面積	發電率	年平均馬力數	等級
五七二	阿知川	二三	長野縣下伊那郡清内路村 下落内路	同郡 畫智里村	湯水 五七 低水 九五 平水 一二四	四六〇	二、九一〇	一、九〇〇	四四六	九四五	四五八三	甲
五七三	同	二四	長野縣下伊那郡智里村 小野川	駒場郡 會地村	湯水 一二四 低水 二〇八 平水 二七〇	一一八	一、六二四	一、〇〇〇	九七三	九四五	二五七四	甲
五七四	同	二五	長野縣駒場郡古科村	立同 石郡三穗村	湯水 一四二 低水 二二九 平水 三〇九	二九三	四、六一八	一、九〇〇	一一七	九四五	七三四四	甲
五七五	本谷川	二六	長野縣下伊那郡智里村 横川渡	同郡 奧智里宮村	湯水 四六 低水 七七 平水 一〇〇	*二五〇	一、二七六	一、五〇〇	三六一	九四五	二〇一八	甲

水力地點ノ説明

順位五七二 本地點ハ水路ヲ左岸ニ設ケ殆ト全部隧道

シ大部分隧道ニヨリ導水ス

順位五七五 本地點水路ハ左岸トス

トス

第八節 和知野川

順位五七三 本地點ハ右岸ニ取入レ大部分開渠トス
順位五七四 本地點水路ハ左岸トシ河川屈曲部ヲ利用

一流域 和知野川ハ阿知川ノ南ニ接シテ天龍川右岸ニ

合流スル支川ニシテ流域面積約一二方里ヲ有ス

(一)地形 流域ノ形状ハ西方最廣ク東方ニ向ツテ著シク狭小トナル殆ト全部高峻ナル山地ニシテ水源地方ニ多少ノ緩傾斜地アル外殆ト平地ヲ見ス地勢ハ大體西ヨリ東ニ向ヒテ傾斜ス

(二)地質 殆ト全部花崗岩ニシテ處々小面積ノ片麻岩ヲ介在シ又下流部左岸ニ少部分ノ第三紀層ヲ包有ス

(三)林野状態 上流部ハ不良ニシテ無立木地最多ク針葉樹疎林雜木林ノ散在スルノミナルカ中流部豊村ニ至レハ漸次良好トナリ主トシテ潤葉樹ノ天然密林ヲ見ルニ至ル而シテ其ノ下流ハ再ヒ疎林トナリ雜木林杉林松林點々散在ス

(四)氣象状態 降水量多キ地方ナリ夏季最多ニシテ六月ヨリ八月迄ノ總雨量一〇〇〇耗ヲ越ユルコトアリ之ニ次クヲ秋季トシ冬季最少シ年平均氣温ハ場所ニヨリ差違アレトモ大凡一〇度内外ヲ示シ八月ノ平均最高ハ三〇度ニ近ク二月ノ平均最低ハ零下八度内外ニ達スルコトアリ其ノ毎月ノ最高最低氣温ノ差ハ平均約一二度ナリ。上流波合ニ於ケル大正九十年年平均降水量ハ二、九九四耗、同平均氣温ハ九七度ヲ示セリ

和知野川流量表

△ヲ附セル行ハ翌年一月ヨリ三月マテノ資料ヲ充當シテ査定セルモノナリ

順位	舊順位	河川	測水所	流域面積	流量				流域一方里當流量					
					年次	最大	平水	洪水	最小	最大	平水	低水	洪水	最小
一四九	一	和知野川	長野縣下伊那郡豊村 和合コシセ	四九七	大正八年 二二〇	二二六	一〇六	七四	六九	二五九	二四	二二八	一五二	一四三
					大正九年 一七五	一〇九	八七	六六	五九	二四	二四	一七九	三六	二五
					大正十年 二四〇	一四三	八七	六六	五九	二四	二四	一七九	三六	二五
					大正十一年 一六〇	二六	九	六	五	三	九	二	一	〇
					平均	二六	九	六	五	三	九	二	一	〇
一五〇	同		長野縣下伊那郡大下條村 和知野波瀬	一一〇〇	大正八年 二二〇	二二六	一〇六	七四	六九	二五九	二四	二二八	一五二	一四三
					大正九年 一七五	一〇九	八七	六六	五九	二四	二四	一七九	三六	二五
					大正十年 二四〇	一四三	八七	六六	五九	二四	二四	一七九	三六	二五
					大正十一年 一六〇	二六	九	六	五	三	九	二	一	〇
					平均	二六	九	六	五	三	九	二	一	〇

三、水利及治水

流木ハ主トシテ中流和合附近ヨリ天龍川合流點ニ近キ村上迄毎年九月ヨリ翌年三月迄行ハレ數量年額八千尺内外アリ材種ハ樺、松等ニシテ長サ一八尺許トシ村上ニテ之ヲ筏ニ組ミ天龍川ニ出スモノトス。漁業ハ多少アルモ云フニ足ラス、水車ハ和合附近ニ製板用ノモノ一箇アルノミ、其ノ他治水灌漑等ニ關係ナク許可水力地點モナシ

ノ落差二千百餘尺、外ニ支流賣木川ニテ其ノ下流部約一里間落差約四六〇尺トス

水力地點ノ説明

順位五七六乃至順位五七九 本地點水路ハ左岸ニ設ケテ賣木川ニ放流ス水路ハ全部隧道トス

四、水力地點

利用區域ハ上流波合以下全部約六里間此

テ賣木川ニ放流ス水路ハ全部隧道トス 順位五八一 本地點水路ハ左岸ニ設ケテ全部隧道トス

順位五八二 本地點ハ水路ヲ右岸ニ設ケ大部分隧道トス

和知野川水力地點表 水量、落差ニテ附セルハ概定數ナリ

順位	河川	番地 號點	取 入 口	放 水 口	水 量	落 差	馬 力 數	互 水 長 路	面 積 域	能 發 電 率	年 平 均 馬 力 數	等 級
五七六	和知野川	二七	長野縣下伊那郡波合村 波合村外	波合村 波合村	平水 二七 低水 三八 濁水 五一	三一〇	九二九 一、三〇七 一、七五四	一、〇〇〇	一九八	九六三 八八二	一、五八 一、五四七	甲
五七七	同	二八	長野縣下伊那郡波合村 波合村	和同 合郡日豐村	平水 三五 低水 五〇 濁水 六八	四一〇	一、五九二 二、七二五 三、〇九四	一、六八〇	二六二	一〇〇〇 九六三 八八二	一、五九二 二、六〇四 二、七六八	甲
五七八	同	二九	長野縣下伊那郡日豐村 影村	和同 合郡大豐村	平水 四七 低水 六七 濁水 九〇	三九〇	二、〇三四 二、九〇〇 三、八九六	一、四四〇	三四八	一〇〇〇 九六三 八八二	二、四〇四 二、七九二 三、四一六	甲
五七九	同	三〇	長野縣下伊那郡大豐村 月村	和同 合郡木曾村	平水 六一 低水 八六 濁水 一一六	二二〇	一、四八九 二、一〇〇 二、八三二	一、四四〇	四四八	一〇〇〇 九六三 八八二	一、四八九 二、〇三二 二、四九七	甲
五八〇	同	三一	長野縣下伊那郡木曾村 木曾村	和同 合郡豐川村	平水 六八 低水 九七 濁水 一三〇	四〇五	三、〇五六 四、三六〇 五、八四四	一、七四〇	五〇三	一〇〇〇 九六三 八八二	三、〇五六 四、一九八 五、一五四	甲
五八一	同	三二	長野縣下伊那郡大下條村 池ノ島	南同 條郡大下條村	平水 一四六 低水 二〇六 濁水 二七八	二七〇	四、四七五 六、一七三 八、三三一	二、五七〇	一〇、七五	一〇〇〇 九六三 八八二	四、四七五 五、九四四 七、三四七	甲

第九節 遠山川

一、流域 遠山川ハ和知野川合流點直下ニテ天龍川左岸ニ注ク支流ニシテ其ノ流域ハ下伊那郡東南隅ヲ占メ小澁川南隣ニ位シ面積約二十二方里半ヲ有ス

(一)地形 下流部沿岸ニ多少ノ低平地ヲ有スル外全部峻峻ナル山地ニシテ東方ニハ高サ三、〇〇〇米乃至二、〇〇〇米ノ赤石山脈ノ連山ヲ負ヒ其ノ支脈縱横ニ延ヒテ域内ニ重疊シ人跡未到ノ地多シ、本流域ハ信州南端ニ位シ東南ニ方ハ信遠國境ノ連嶺ニテ圍マレ地勢概ネ東北ヨリ西南ニ向ツテ傾斜ス

(二)地質 流域中央ニハ北端上村川溪谷ヨリ和田ヲ經テ南端青崩峠ニ達スル極メテ狹長ナル片麻岩層アリテ流域ヲ東西ニ兩斷シ其ノ東方一帶ノ山地ハ古生層ヨリ成リ西方下流部ニハ花崗岩連ル又古生層及片麻岩ノ中間ニハ結晶片岩ノ狹層北部ニ介在セリ

(三)林野狀態 上流部ハ所謂遠山御料林ニシテ未タ斧鉞

ノ入ラサル主トシテ檜桐等ノ針葉樹ノ大原始林ニ屬シ支流上村川及八重河内川流域亦大部分原生美林ヨリ成ル、上村川合流後ハ流域界連嶺ノ上部ニ主トシテ潤葉樹ノ原始林アルモ他ニハ殆ト森林ノ見ルヘキモノナク唯疎林、雜木林ノ散在スルノミ、植林事業ハ上流部島附近ニテ十數年來稍大規模ノ造林ヲナシツツアル外處々ニ杉樹ノ植栽セルヲ見ルモ概シテ餘リ盛ナラス

(四)氣象狀態 降水量ハ上流山嶽地方ニ多ク下流稍少キモ一般ニ降水量稍多キ地方ナリ、氣温ハ本水系内ノ略中位ニ當リ夏季最高三〇度ニ近ク冬季最低零下六七度ヲ示スコトアリ上村川筋上村ニ於ケル大正十年ノ降水量ハ二、四四五耗、平均氣温ハ一一、四度ナリ

二、河川狀況 本川ハ東境ノ高峰聖嶽ノ溪谷ニ發シテ西流シ北又澤ヲ北岸ニ合スルニ及ヒテ大體西南方ニ轉向シ順次上村川ヲ右岸ニ、池口川八重河内川ヲ左岸ニ合シ波狀ヲ畫キテ山間ヲ迂流シテ天龍川ニ注ク。上村川合流以上ハ兩岸山勢頗ル急ニシテ河川深溪ヲナスモ合流後ハ沿岸

五八二	賣木川	三三	長野縣下伊那郡豐村 日吉	和同 合郡豐川村	平水 * 一三 低水 * 一四 濁水 * 一五	* 四二〇	二、七五〇 三、九一六 五、二六八	一、六八〇	四三六	一〇〇〇 九六三 八八二	二、七五〇 三、七七一 四、六四六	甲
-----	-----	----	-----------------	-------------	-------------------------------	-------	-------------------------	-------	-----	--------------------	-------------------------	---

各處ニ小低地ヲ開キ山腹ノ傾斜稍緩トナリ最下流ニ至リテ再ヒ峡谷ヲナス、河岸ニハ諸處ニ岩盤ヲ露出スルモ地質ハ古キ水成層ナルヲ以テ多年ノ風化作用ヲ受ケテ崩壊セラル處甚タ多ク之ヨリ多量ノ土砂ヲ流出シ河床砂礫堆積シテ稍荒廢ノ狀ヲ呈ス、唯中流部大島附近約半里間ハ河幅著シク狹窄セラレ河床轉石横ハリ岩盤露出シ勾配甚タ急ナリ、平均勾配ハ上流部約三〇分ノ一内外中流以下約七〇分ノ一内外ナリ又中流以下ハ頗ル小屈曲ニ富メリ

遠山川流量表

△ヲ附セル行ハ翌年一月ヨリ三月マテノ資料ヲ充當シテ査定セルモノナリ

順位	舊順位	河川	測水所	流域面積	流量				流域一方里當流量					
					年次	最大	平水	低水	湯水	最小	最大	平水	低水	湯水
一五一	三〇六	遠山川	長野縣下伊那郡和田村大島西島	二六二	大正八年 五〇三〇 大正九年 九五五〇 大正十年 一〇、六〇〇 大正十一年 一三、七〇〇 平均 一三、七〇〇	三三三	二六八	一九一	一七〇	三三三	二三八	一六六	一九九	一〇六
一五二	同	同	長野縣下伊那郡平岡村折立	二六五	大正八年 一四、五〇〇 大正九年 一四、五〇〇 大正十年 一四、五〇〇 大正十一年 一四、五〇〇 平均 一四、五〇〇	七九〇	四〇〇	三〇〇	二〇七	六〇〇	三六五	一八九	一〇六	九六

堆積シ勾配亦緩ナリ

流量變化ノ狀況ハ天龍川其ノ他ト略相同シ

三、水利及治水 上村川合流以下沿岸ニ少許ノ耕地點在

シ殊ニ和田部落對岸ニ稍廣キ耕地アリテ灌溉用水ノ引用アリ、其ノ數和田村内ニテ三箇所灌溉反別三〇町歩ニ足ラスト雖家事用ノ爲四時引用ス。流木ハ本支流共甚タ盛ニシテ四季ヲ通シテ行ハレ年額數萬尺ゲニ達ス、材種ハ檜、樺、樺、杉、松等トシ天龍川合流點ニ至リテ筏組トシ天龍川ヲ流下スルモノニシテ製紙用材ヲ主トス。其ノ他治水漁業等

遠山川水力地點表

水量、落差ニ*ヲ附セルハ概定數ナリ

順位	河川	番地點	取入口	放水口	水量	落差	馬力數	延長路	流域面積	發電率	年平均馬力數	等級
五八三	遠山川	三三	長野縣下伊那郡上村柿ノ島	同郡阿木澤村	湯水 一一一 低水 一六四 平水 二四六	二九五	三、六三九 五、二六〇 八、〇五五	二八〇	九六七	一〇〇〇 九五・一 八五〇	三六三九 五〇〇二 六八四六	甲
五八四	同	三五	長野縣下伊那郡木澤村	同郡和田原村	湯水 一八〇 低水 二六六 平水 三九八	二七〇	五、三九四 七、九七二 一一、九二八	二六四〇	一五六五	一〇〇〇 九五・一 八五〇	五三九四 七六一一 一〇二三八	甲
五八五	同	三六	長野縣下伊那郡南和田原村	同郡折平岡立村	湯水 二三五 低水 三四七 平水 五一八	二〇五	五、三四七 七、八九五 一一、七八七	二四〇〇	二〇四〇	一〇〇〇 九五・一 八五〇	五三三七 七五〇八 一〇〇一八	甲

多少アルモ殆ト言フニ足ラス

許可水力地點ハ支流池口川ニ和田水力電氣經營百馬力

以下ノモノ一アリ

四、水力地點 本流ハ上流部加良澤合流以下全川約六

里間、落差約一、〇〇〇尺、上村川ハ中流部一里弱ノ間落差約三三〇尺、池口川ハ下流彎曲部落差約八〇〇尺ヲ以テ利用範圍トナス

順位	河川	番地 號點	取 入 口	放 水 口	水 量	落 差	馬 力 數	互 水 長 路	面 積 積 域	能 發 率 電	年 平 均 馬 力 數	等 級
五八六	遠山川	三七	長野縣下伊那郡平岡村 折立	平岡郡平岡村	湍水 二四九 低水 三六八 平水 五五〇	一四〇	三八六九 四、二四九 八、五四七	一三〇	二、六五	一〇〇〇 九、五一 八、五〇	三、八六九 四、〇〇九 七、二三四	甲
五八七	上村川 (遠山川支流)	三八	長野縣下伊那郡上 中郷村	同郡上上 町村	湍水 三五 低水 五二 平水 七七	*三〇〇	一、一六六 一、七三二 二、五六四	一二〇	三、〇五	一〇〇〇 九、五一 八、五〇	一、二六六 一、六四七 二、二七九	甲
五八八	池口川 (遠山川支流)	三九	長野縣下伊那郡和田村 池口	同郡和田村	湍水 *一一 低水 *一六 平水 *二四	*七〇〇	八五五 一、二四三 一、八六五	三六〇	〇、九七	一〇〇〇 九、五一 八、五〇	八、五 一、一八二 一、五八五	甲

水力地點ノ説明

順位五八三 本地點ハ右岸ニ取入レ水路ハ隧道開渠相
半ス

順位五八四 本地點ハ上村川合流下右岸ニ取入レ河川
屈曲ヲ利用シ水路ハ全部隧道トス

順位五八五 本地點ハ左岸ニ取入レ水路ハ隧道開渠略
相半ス

順位五八六 本地點ハ前號放水口下ニテ直ニ左岸ニ取
入レ大部分隧道ニヨリ導水シ天龍川ニ放流ス

順位五八七 本地點ハ左岸ニ取入レ水路ハ大部分隧道

トス

順位五八八 本地點ハ右岸ニ取入レ水路ハ隧道トス

第十節 早木戸川

一流域 早木戸川ハ和知野川南隣ニ位シ天龍川右岸ニ於ケル信州最南端ノ小支流ニシテ流域面積約三方里餘ニ過キス、上流部ハ低キ連山ヲ以テ圍繞セラレタル甚タ緩傾斜ノ盆地ニシテ耕地廣開シ居ルモ中流以下峻峻ナル山地トナリ急傾斜ヲ以テ河岸ニ臨ミ河川深溪ヲナス。地質ハ大部分花崗岩ヨリ成リ處々片麻岩ヲ介ム。林野狀態ハ中

流部ニ針濶混滑ノ密林アリテ良好ナルモ上流及下流部ハ多ク伐採シ盡サレ疎林若ハ無立木地ノミニシテ不良ナリ。降水量饒多ニシテ年量二千數百耗ニ達ス

二、河川狀況 本川ハ西境ノ山間ニ發シ東流シテ天龍川ニ注ク、上流ハ沿岸極メテ緩傾斜ナルモ漸ク下レハ兩岸急峻ナル溪谷トナリ河幅窄マリ處々ニ岩盤ヲ露出シ河床ハ玉石砂利ヨリ成ル、勾配モ上流稍緩ナルモ峽谷ニ入りテ頓ニ急トナリ二〇分ノ一内外ヲ有シ急湍漂流ヲナス、合流附近ニ至レハ河幅稍廣マリ河床玉石ノ堆積多シ、本川ハ屈曲

早木戸川 水力地點表

水量、落差ニ*ヲ附セルハ概定數ナリ

順位	河川	番地 號點	取 入 口	放 水 口	水 量	落 差	馬 力 數	互 水 長 路	面 積 積 域	能 發 率 電	年 平 均 馬 力 數	等 級
五八九	早木戸川	四〇	長野縣下伊那郡神原村 向方	同郡神原村 中組	湍水 *二六 低水 *三七 平水 *五〇	*七〇〇	二、〇二〇 二、八七五 三、八八五	一七四〇	一、四	一〇〇〇 九、六三 八、八二	二、一〇〇 二、七九 三、四七	甲

第十一節 大千瀨川

一流域 大千瀨川ハ遠州ノ北端、三河トノ國境附近ニテ天龍川右岸ニ合流スル支川ニシテ流域ハ大部分三河ノ東端ナル北設樂郡ニ屬シ末流遠州磐田郡ノ一部ヲ占メ面積

約二三方里アリ

(一)地形 稍南北ニ長キ長方形狀ヲナシ全部山地ナレトモ概ネ高サ千米ニ達セサル低山ノ起伏ニシテ山勢概シテ峻峻ナラス大體地勢ハ西北ヨリ東南ニ向ツテ傾斜ス

(二)地質 第三紀層、花崗岩、片麻岩等相錯綜シテ存スレト

モ主トシテ北部ハ花崗岩及片麻岩、南部ハ第三紀層ナリ、又下流右岸即チ流域ノ東南隅ニハ結晶片岩アリ

兩地方ノ一タリ今流域内上黒川、鴨山及下田三地ニ於ケル大正九、十兩年平均年降水量ヲ擧クレハ夫々二、五九七耗、三、一四七耗及二、六二一耗ナリ

(三)林野状態 流域ノ北半ハ状態最不良ニシテ主トシテ無立木ノ原野ヨリ成リ南半ハ天然林トシテ見ルヘキモノハ概ネ濶葉疎林ニ止マル、然レトモ流域内一般ニ植林甚タ盛ニシテ漸次無立木地ニ杉ヲ植栽シ居レリ殊ニ南方ニ於テハ全山悉ク杉林ヲ以テ蔽ハレタル處多ク就中本郷附近及金原山林等優良ナリ

二、河川狀況 上流ハ二川ニ分レ一ハ大入川ト稱シ流域ノ西北境ニ發シテ東流シ東境ニ至リテ南折シ他ハ振草川ト稱シ西境ヨリ發シテ東南流シ鴨山、神田等ノ諸川ヲ左右ニ合セ漸次東方ニ向ヒ三遠國境ニ至リテ二川相合シテ大千瀨川トナリ東流天龍川ニ注ク、小支川甚タ多ク恰モ樹枝狀ヲナシ頗ル屈曲ニ富ム、流下勾配ハ大入川稍急ニシテ五

(四)氣象状態 夏季ハ濕潤ナル南風ノ影響ヲ受ケテ降水量甚タ多ク六月ヨリ八月迄ノ間ニハ一、〇〇〇耗以上ニ及フヲ常トス、春秋ハ約半減シ冬季ハ更ニ少ク夏季ノ五分ノ一以下トナル年降水量ハ二、五〇〇耗ヲ超エ本水系内最多

一内外ニ過キニ合流後ハ著シク緩トナル、全川兩岸稍低ク開ケ河幅亦割合ニ廣ク河岸諸處ニ概ネ第三紀層ノ軟岩盤

大千瀨川 流量表

△ヲ附セル行ハ翌年一月ヨリ三月マテノ資料ヲ充當シテ査定セルモノナリ

順位	舊順位	河川	測水所	流域面積	年次				流域一方里當流量			
					最大	平水	低水	最小	最大	平水	低水	最小
一五三	一	大千瀨川	静岡縣磐田郡 蒲川村 川合 狐瀨	二七六	大正八年 大正九年 大正十年 大正十一年 平均	四、一〇〇 五、五三三 二、六 二、三 二、七〇 一、八〇〇 九、八九	一、一 一、一 一、一 一、一 一、一	一、一 一、一 一、一 一、一 一、一	一、一 一、一 一、一 一、一 一、一	一、一 一、一 一、一 一、一 一、一	一、一 一、一 一、一 一、一 一、一	一、一 一、一 一、一 一、一 一、一

ヲ露出シ河床ハ砂礫ヨリ成レリ、唯大入川下流部ハ兩岸急峻ニシテ河川深溪ヲナシ河幅狹ク河岸ニ花崗岩ヲ露出シ勾配急ナリ、概シテ土砂ノ流下少ク河水常ニ清澈ナリ

三、水利及治水 流水ハ各支川トモ相當ニ盛ニシテ舟筏ハ主トシテ下流部蒲川以下ニ行ハル、漁業ハ中流以下ニテ夏季鮎漁稍盛ナリ、許可水力地點ハ東邦電力經營ニ係ル大入川ヨリ取入レ天龍川ニ放水スル既設ノモノノ外振草川筋ニ東三製材ノ小馬力未開始地點一アリ

四、水力地點 千馬力以上ニ有利ニ利用シ得ヘキ位置ナキヲ以テ地點ヲ選定セス

第十二節 水窪川

一、流域 水窪川ハ天龍川左岸ニ注ク遠州最北ノ支流ニシテ流域ハ周智郡北部ニ位シ末流磐田郡ノ一部ヲ占ム其ノ面積約十四方里半ナリ

(一)地形 流域狹長ニシテ中流沿川ノ狹キ低地ヲ除ケハ他ハ悉ク高峻ナル山地ニ屬シ東境ニハ高サ二千米ヲ超ユル赤石山脈ノ一部連亘シ之ヨリ地勢ハ漸次西南方ニ傾斜スルモ山勢ハ下流モ依然甚タ急峻ナリ

(二)地質 大部分秩父古生層ニシテ西境ニ片麻岩及花崗

岩、又西南下流部ニ結晶片岩アリ

(三)林野状態 上流部ハ御料林ニシテ針濶混淆ノ原生大樹林ヲ有スルモ中流以下沿川漸次疎林トナリ下流ハ殆ト天然林ヲ見ス、サレト植林ハ甚タ盛ニシテ諸處ニ杉ノ造林アリ又左岸山頂ノ一部ニハ未立木地アルモ大體ニ於テ林狀良好ナリトス

(四)氣象状態 降水量饒多ニシテ中流部水窪ニ於ケル大正八年乃至十年平均年量ハ二、四一九耗アリ夏季ヨリ秋季ニ跨リテ最多ク春季之ニ次キ冬季著シク寡シ

二、河川狀況 上流部ハ二川ニ分レ一ヲ白倉川ト云ヒ他ヲ戸中川ト云フ、白倉川ハ流域東北隅白倉山ニ發シテ西南流シ後南方ニ轉流シ戸中川ハ東境山嶺ニ發シテ西流シ戸中山山麓ヲ大迂回シテ漸次南方ニ向ヒ更ニ西轉シテ白倉川ニ合シ水窪川トナリ西流シテ水窪附近ニ至リ南方ニ轉流シ山間ヲ迂走シテ天龍川ニ合ス、兩岸ノ山腹頗ル急峻ニシテ絶壁屹立シ河床轉石多ク河幅狹ク河川概ネ深溪ヲナセリ唯水窪附近約一里間ハ右岸低ク開ケテ耕地アリ村落軒ヲ列ネ稍般賑ナル山間ノ小市邑ヲナセリ、上流二川及水窪川下流部ハ頗ル屈曲ニ富ム、又流下勾配ハ上流二川共三〇分ノ一以上アリ合流後ハ五〇分ノ一内外ヨリ漸次減シ

テ一〇〇分ノ一内外トナル沿岸ノ地質ハ水窪以上古生層
ソレ以下ハ悉ク結晶片岩ヨリ成レリ
本川濁水ハ一二月頃年ニヨリテハ十二月又ハ三月起リ
其ノ後ハ漸次流量ヲ増加シ四月ハ殊ニ著シク増水シソレ

水窪川流量表

順位 番順位	河川	測水所	面積	年次		流量													
				最大	平均	最大	平水	低水	濁水	最小	最大	平水	低水	濁水	最小				
一五四	水窪川	静岡縣周智郡城西村 奥領家川中	二九一	大正八年 一〇、四〇〇	大正九年 五、四〇〇	大正十年 二、五〇〇	大正十一年 二、五〇〇	大正十二年 六、七五〇	平均 六、七五〇	一八四	一六八	一七四	九〇	七二	五七	五七	六〇	六〇	七六

ヨリ十月頃迄ハ最豊富ナル時期ニシテ月最小ト雖概ネ低
水量以上アリ屢出水ヲ來シ變化甚タ多シ出水ノ最大ナル
モノハ夏季ヨリ初秋ニ至ル間ノ豪雨ニ伴フモノトス、十一
月以降翌年三月頃迄ハ流量著シク減少シ變化亦甚タ少シ

三、水利及治水

流木甚タ盛ニシテ上流ヨリ天龍川合流
點迄四時行ハレ年額二、三萬尺ニ達ス、建築用材又ハ薪材
ニシテ材種ハ杉ヲ主トシ長十五、六尺以下トス。漁業ハ夏
季僅少ノ鮎漁アルノミ。中流水窪附近ニ少量ノ灌溉用水
アリ、其ノ他治水等ニハ關係ナシ

合流附近各約一里半落差約五三〇尺及兩川合流以下約一
里半、落差約三二〇尺竝下流屈曲部約二里、落差約三二〇尺
トス
水力地點ノ説明

許可水力地點ハ小支流河内川ニ與山電燈ノ既設百馬力
未滿一アルノミ

順位五九〇 本地點ハ白倉川ヲ左岸ニ戸中川ヲ右岸ニ
取入レ合流點附近ニ發電所ヲ設ク水路ハ殆ト全部隧道ト
ス

四、水力地點

利用區域ハ上流部白倉、戸中兩川ニテ其ノ
順位五九一 本地點ハ二川合流下右岸ニ取入レ水路ハ

水窪川水力地點表

落差ニ*ヲ附セルハ概定數ナリ

順位	河川	番地點	取入口	放水口	水量	落差	馬力數	直水路	面積	能發電率	年平均馬力數	等級
五九〇	白倉川	四一	静岡縣周智郡奥山村 地頭方 難場道	同郡奥山村 地頭方 田	濁水 四五 低水 八〇 平水 一三六	*四八〇	二、三九七 四、二六二 七、二四六	一、八〇〇 二、八〇〇 二、七六二	二、二六一 二、七六二	一〇〇〇 九四二 八二六	二、三九七 四、〇〇四 五、九三二	甲
五九一	水窪川	四二	静岡縣周智郡奥山村 奥領家	同郡奥山村 奥領家 小畑村	濁水 五七 低水 一〇二 平水 一七三	三〇〇	一、八九八 三、三九七 五、七六一	二、二九〇 三、三九七 五、七六一	七、七三三	一〇〇〇 九四二 八二六	一、八九八 三、三九七 四、七〇〇	甲
五九二	同	四三	静岡縣周智郡城西村 切開	磐田郡山香村 西渡	濁水 一〇〇 低水 一七八 平水 三〇一	三〇〇	三、三三〇 五、九二七 一〇、〇二三	二、四三〇	二、二六一	一〇〇〇 九四二 八二六	三、三三〇 五、九二七 一〇、〇二三	甲

大部分隧道トス

順位五九二 本地點ハ主トシテ河川屈曲ヲ利用スルモ
ノニシテ右岸ニ取入レ主トシテ隧道ニヨリ天龍川沿岸ニ
導キ同川ニ放流ス

第十三節 氣田川

一流域 氣田川ハ水窪川南隣ニ位シ天龍川左岸ニ於ケ
ル主ナル支流中最下位ニ在リ流域ハ周智郡中部ヲ占メ末
流磐田郡ニ跨リ面積約二二方里ヲ有ス

(一)地形 上流部ハ赤石山脈ニ屬スル連山ナルヲ以テ地
勢甚タ高峻ナリト雖中流部以下漸次其ノ高サヲ減シ氣田
附近ニテハ左岸殊ニ山勢緩ニシテソレヨリ以下沿川諸處
ニ小平地ヲ開ク、地勢大體北ヨリ南ニ向ツテ傾斜セリ
(二)地質 殆ト全部秩父古生層ニシテ唯東南ノ一隅ニ御
坂層ノ存スルアリ
(三)林野狀態 御料林ハ水源タル都澤京丸澤及支流杉川
上流部ニ亘リテ約九、〇〇〇町歩ノ面積ヲ有シ針葉樹又ハ
針澗混精樹ノ原始林ニシテ頗ル優良ナル狀態ニ在リ、之ニ

接續シテ京九附近ニ京九縣有林アリ之亦原生良林ナルモ漸次擇伐シ植林スルノ計劃アリテ其ノ一部ハ既ニ實現セラレツツアリ中流以下ハ漸次伐採セラレテ天然樹林ヲ失ヘルモ一方植林事業甚盛ニシテ山麓ヨリ順次山頂ニ向ヒ植栽セラレツツアリテ現在無立木地ハ中流部附近ノ山頂諸處ニ存スルニ止マレリ殊ニ下流部ハ杉ノ美林多ク之ニ天然潤葉樹林相錯綜シテ繁茂シ甚タ良好ナル狀態ヲ呈ス

(四)氣象狀態 本水系内降水量最多キ地方ナリ第一節ニ述ヘタル如ク夏季雨量最饒多ニシテ六月ヨリ八月迄ノ間ニハ一〇〇〇耗ヲ超ユルヲ常トシ春秋二季之ニ次キ冬季ハ甚タ減少シテ僅ニ三〇〇耗前後ヲ測ルニ過キス下流低地氣田ニ於ケル大正八年乃至十年平均年量ハ實ニ三、三九耗ヲ示セリ

二、河川狀況 本川ハ流域ノ北境前黒法師山ノ溪間ニ發シ西南流シテ門桁ニ至リ之ヨリ南流スルコト凡四里豐岡ニ至リテ左ニ石切川ヲ合セ更ニ迂曲シテ南方氣田ニ出テ杉川熊切川ヲ順次左岸ニ合シ秋葉山南麓ヲ廻リテ天龍川ニ注ク上流京九澤合流以下最下流迄小屈曲連續シテ直流セル處殆トナシ石切川合流以上ハ兩岸山勢頗ル急峻ニシテ河川深溪ヲナシ河幅狭ク岩盤露出シ河床ハ玉石砂利ヨ

リ成ル同合流後ハ兩岸稍開ケテ低平トナリ河幅遽ニ増大シ下流氣田以下殊ニ甚シ河床ハ玉石砂礫多キモ流路ハ一定シテ亂流ノ狀ナシ流下勾配ハ上流四〇分ノ一内外ヲ有スルモ豐岡ノ稍上流ヨリ著シク減少シ來リテ八〇分ノ一前後トナリ尙漸次遞下シテ下流約二〇〇分ノ一トナル支流石切川杉川熊切川等ハ何レモ東境山間ニ發シ大體西南流シテ氣田川ニ合ス石切杉兩川上流部ハ溪谷狀ヲナスモ其ノ他ハ沿岸稍開ケ山勢緩ナリ河岸ニハ處々岩盤ヲ露出シ河幅概ネ廣ク河床ハ砂礫多シ又三川共屈曲甚タ多ク勾配ハ何レモ上流部ニテ四〇分ノ一内外ヲ有スレトモ中流以下ハ甚タ緩ナリ

流量ハ四月ヨリ九月マテ一般ニ最豐富ニシテ數々大小ノ出水アリ變化甚タ多シ出水ハ八月前後ノ豪雨ニ伴フモノ殊ニ著シ十月以後漸次減少シ且變化モ少ク翌年二月前後ニ最渴水ヲ見ル夏季中一時稍減スルコトアルモ低水量ヨリ下ルコトナシ

三、水利及治水 流木盛ニ行ハレ毎年十月ヨリ翌年四月ニ至ル間上流ヨリ流下セラルル材積年々二、三萬尺ニ達ス材種ハ樅、榿、唐檜、山毛櫸、檜、杉、檜等ナリ氣田以下ハ天龍川合流點迄舟筏ノ航行アルモ數量著シカラス中流豐岡以下

氣田川流量表

順位	舊順位	河川	測水所	面積	年次				流域一方里當流量						
					最大	平均	低水	最小	最大	平均	低水	最小			
一五五	1	氣田川	靜岡縣周智郡氣多村 豐岡植田	九望	大正八年 五、〇五〇	大正九年 三、七〇〇	大正十年 五、九五〇	大正十一年 一、七五〇	平均	二、八七	一、六六	一、〇四	一、七四	九三	七七

沿岸ニハ小耕地開ケ「植田」野尻等ノ灌漑用水引用セラレ居ルモ水量僅ニ三個乃至五個ニシテ五月ヨリ九月迄ヲ引用期間トス又漁業ハ中流以下ニ夏季鮎漁稍盛ニ行ハル。治水等關係ナシ

許可水力地點ハ中流部ニ早川電力ノ千馬力以上未設地點一及其ノ下流氣田地内ニテ王子製紙氣田工場ニテ既ニ發電セルモノ約二百馬力ノモノ一アリ同工場ニテハ此ノ

氣田川水力地點表

順位ニ()ヲ附セルハ許可地點ト關係アリ
落差ニ*ヲ附セルハ概定數ナリ

順位	河川	番地點	取入口	放水口	水量	落差	馬力數	互水長路	面積	發電率	年平均馬力數	等級
五九三	氣田川	四四	靜岡縣周智郡與山村 山住倉柱	豐岡郡氣多坂村	清水 三八 低水 六七 平水 一一〇	* 五〇〇	二、一〇九 三、七一九 六、六六〇	二、三三〇	四、七	一〇〇〇 九八八 八〇二	二、一〇九 三四八〇 五三四一	甲

外工場用水トシテ一〇〇個内外ノ水量ヲ引用シ居レリ

四、水力地點 上流部ニテ勝坂ノ上約一里半、落差約五五〇尺、稍下リテ植田ヨリ下流一里餘、落差約一六〇尺及下流屈曲部約二里、落差約九〇尺ヲ利用區域トシテ選定セシモ中間ノ分ハ選定後許可トナレリ

順位	河川	番地 號點	取 入 口	放 水 口	水 量	落 差	馬 力 數	互 水 長 路	面 積 域	能 發 率 電	年 平 均 馬 力 數	等 級
(五九四)	氣田川	四五	靜岡縣周智郡氣多村 豐岡植多田	同 氣田郡 氣多村	湯水 八四 低水 一四八 平水 二六四	一四五	一、三五二 二、三八二 四、二四九	二、四〇〇	九三五	一〇〇〇 九三八	一、三五二 二、三四	乙
五九五	同	四六	靜岡縣周智郡犬居村 領家和田谷	小磐田郡 龍川間村	湯水 一八四 低水 三二三 平水 五七六	八〇	一、六三四 二、八六八 五、一一五	二、四〇〇	二、〇四三	一〇〇〇 九三八 八〇二	一、六三四 二、六九二 四、一〇二	乙

水力地點ノ説明

順位五九三 本地點ハ右岸ニ取入レ水路ハ主トシテ隧道トス道路頗ル險惡ニシテ材料運搬ニ適セス且工事亦困難ナリ

順位五九四 本地點ハ右岸ニ取入レ主トシテ河川屈曲ヲ利用シ水路ハ隧道トス

順位五九五 本地點モ河川屈曲部ヲ利用スルモノニシテ水路ハ左岸ニ設ケ主トシテ隧道トス

第十三章 三面川水系

一、流域 三面川ハ越後最北部ニ於テ日本海ニ注ク河川

ニシテ流域面積約四五方里アリ

(一)地形 東方水源部ニハ最高峯西朝日嶽(一、八一四米)ヲ始メトシテ千六、七百米ノ峻峯聳立シソレヨリ漸次西方ニ向ツテ低下スルモ中流部猶千米内外ノ高サヲ有シ山勢甚タ急峻ニシテ河岸ニ至リテ屹立シ其ノ餘脈ハ下流部ニ延ヒテ緩傾斜ノ低山ヲ起伏シ稍廣濶ナル平野ニ接續ス而シテ最下流部北岸ニハ海岸ニ接シテ高サ四、五百米ノ山脈更ニ隆起シ北方ニ連亘ス

(二)地質 中流部以上ハ古生層之カ基盤ヲナシ花崗岩之ニ迸出シテ水源部峻峯ヲ構成スルト共ニ中流部諸處ニ現ハレ又火山岩主トシテ石英粗面岩ノ噴出アリテ中央部諸峯ヲ形ツクリ第三紀層亦此ノ間ニ介在ス下流部ハ低山ハ